地方独立行政法人神戸市民病院機構　令和２年度 年度計画

目次

第１　市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
　１　本市の基幹病院・中核病院としての役割を踏まえた医療の提供
　２　中央市民病院の役割を踏まえた医療の提供
　３　西市民病院の役割を踏まえた医療の提供
　４　西神戸医療センターの役割を踏まえた医療の提供
　５　神戸アイセンター病院の役割を踏まえた医療の提供
　６　共通の役割
第２　業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置
　１　優れた専門職の確保と人材育成
　２　効率的な業務運営体制の構築
第３　財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置
　１　経営改善の取り組みと経常収支目標の達成
　２　経営基盤の強化
第４　予算（人件費の見積りを含む。），収支計画及び資金計画
第５　短期借入金の限度額
第６　重要な財産を譲渡し，又は担保に供する計画
第７　剰余金の使途
第８　地方独立行政法人神戸市民病院機構の業務運営等に関する規則で定める業務運営に関する事項

第１　市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

１　本市の基幹病院・中核病院としての役割を踏まえた医療の提供

⑴ 救急医療・災害医療

〇地域医療機関と密接に連携しながら，引き続き安定した救急医療体制を構築し，各病院の機能と役割に応じた救急医療を確実に提供する。

（中央市民病院）

〇日本屈指の救命救急センターとして，病院全職員が一丸となって多職種が連携した救急医療を行い，あらゆる救急疾患から市民の生命を守る。

〇地域医療機関との役割分担を明確にした上で密接に連携し，よりスムーズな受入れのため，疾患に応じたホットラインを活用するなど，一刻を争う重症及び重篤な患者に対して年間を通じて24時間救急医療を提供する。

〇救急医療に携わる人材の育成を更に推進し，地域における救急医療向上への役割を果たす。

具体的な取り組み

・救急病棟，ＥＩＣＵ・ＣＣＵ，第二救急病棟で構成される救命救急センター（54 床）およびＭＰＵ病棟（８床）の効率的な運用と病床の一元管理の徹底に努め，病院職員が一丸となって，24時間体制であらゆる救急疾患に対応する

・チームによる救急医療体制を展開し，より迅速かつ的確な診断及び処置を行う

・脳卒中，胸痛，心臓血管外科，産科，小児科ホットラインの運用で，救急患者のスムーズな搬送及び受け入れ体制を強化する

・他院からの転送依頼については３次救急扱いとし，引き続き優先的に受け入れを行う。受け入れられなかった症例については検証を行い，応需率の向上に努める

（西市民病院）

〇年間を通じて24時間体制で救急医療を提供し，地域住民の安心及び安全を守る。

〇医師をはじめとする全職種が救急医療の重要性を認識し，地域医療支援病院の役割として実践することで，救急車搬送応需率かつ受入れ件数を高い水準で維持する。また，市や地域の関係機関と連携し，地域全体の救急医療の充実を目指す。

具体的な取り組み

・救急車搬送患者の受け入れを断った理由を分析するとともに，受入促進について救急委員会で引き続き検討を行い，応需率および応需件数の維持・向上を図る

・診療体制を強化するとともに，全職種・診療科による連携のもと，安定した救急医療体制を提供する

・救急外来の拡張工事に着手し，外来ベッドの増床を行う

（西神戸医療センター）

〇地域医療機関と連携し，引き続き年間を通じて24時間体制の安定した救急医療体制を提供することで，地域住民の安心及び安全を守る。

〇西神戸医療センターの位置する地域特性を踏まえ，地域の中核病院として，重症・重篤な救急患者に対しても，救急隊との連携を密にし，より迅速な救命措置を行える体制の維持・向上に努める。

〇全職員への救急車受入れの方針徹底と促進策の実施による救急車受入れ件数の増加に努める。

具体的な取り組み

・救急科をはじめとする全診療科の連携の下，24 時間体制の安定した救急医療体制を提供する

・救急車の応需状況を，院長・副院長会において毎週報告するとともに，受け入れられなかった救急車搬送患者について，その理由を把握し，救急車の受入れ推進方策を検討・実施する

・西消防署，垂水消防署の消防署員と意見交換を行い，救急隊との密接な連携を図る

・脳卒中，循環器，吐下血ホットラインの運用で，救急患者のスムーズな搬送及び受け入れを行う

（共通項目）

〇阪神・淡路大震災及び東日本大震災等の経験を生かし，大規模災害発生時等には，中央市民病院は災害拠点病院として，西市民病院及び西神戸医療センターは災害対応病院としてそれぞれの役割を果たし，市，県及び地域医療機関と連携を図りながら市民の安全確保に率先して取り組む。

〇非常時にも継続して医療を提供できるように平時からＢＣＰ（事業継続計画）の考え方を踏まえた防災・災害対応マニュアルを改訂するとともに，積極的に訓練及び研修に取り組み，危機対応能力を高め，自ら考え行動できる職員を育成する。

具体的な取り組み

（中央市民病院）

・病院ＢＣＰを基本に院内合同防災訓練，各部署での訓練を実施し，一人一人の危機対応能力を高めるとともに，ポートアイランド内の医療機関など地域との連携を強化し，災害拠点病院としての役割を果たせるよう，取り組みを進める

（西市民病院）

・災害時の病院組織の危機対応能力を高め，職員が自ら考え行動できるように，災害対応訓練や研修会を実施するとともに，阪神・淡路大震災の経験を踏まえて，災害対策について病院全体で取り組みを進める

（西神戸医療センター）

・ＢＣＰの考え方を踏まえたマニュアルを基とし，防災訓練等を実施することで危機対応能力を高め，神戸市の災害対応病院としての役割を果たせるよう，取り組みを進める

関連指標

病院名	項　目	平成 30 年度実績
中央市民病院	救急外来患者数(人)	32,747
	うち入院(人)	8,092
	救急車搬送応需率(%)	99.2
	災害訓練回数(回)	38
	災害訓練参加者数(人)	1,332
	災害研修回数(回)	8
	被災地等への派遣件数(件)	1
西市民病院	救急外来患者数(人)	15,009
	うち入院(人)	3,195
	救急車搬送応需率(%)	80.1
	災害訓練回数(回)	41
	災害訓練参加者数(人)	731
	災害研修回数(回)	2
	被災地等への派遣件数(件)	0
西神戸医療センター	救急外来患者数(人)	26,308
	うち入院(人)	3,855
	救急車搬送応需率(%)	74.7
	災害訓練回数(回	37
	災害訓練参加者数(人)	557
	災害研修回数(回)	0
	被災地等への派遣件数(件)	1

⑵　小児・周産期医療

〇地域医療機関との連携及び役割分担のもと，市民が安心して子どもを産み，かつ，育てられるように，質の高い小児・周産期医療を安定的に提供する。

〇次世代を担う子ども達が健やかな成長・発達を遂げられるように医療の面から支援する。

（中央市民病院）

〇総合周産期母子医療センターとして，県立こども病院等との連携及び役割分担のもと，切迫早産，異常妊娠・分娩などの産科合併症のほか，合併症妊娠（心血管疾患，免疫血液疾患，腎疾患，感染症，精神疾患等）といった，母子にとってハイリスクとなるあらゆる出産に対し，専門各科と連携して，小児・周産期医療を安定的に提供する。

具体的な取り組み

・総合周産期母子医療センターとして，母体リスク管理能力を活用し，合併症妊娠，重症妊娠中毒症，切迫早産，胎児異常等ハイリスク母体への診療対応を積極的に行い，低出生体重児や病気をもった新生児についても，最新の医療技術を用いた診療により，救命に努めていく

・連携登録医など地域医療機関と定期的な情報交換と患者情報の共有を図るとともに，母体搬送・産褥への受け入れ，小児科受診への円滑な対応に努める

（西市民病院）

〇市街地西部（兵庫区，長田区，及び須磨区）における周産期医療施設として，正常分娩を中心とした質の高い周産期医療を安定的に提供するとともに，ハイリスク妊娠・ハイリスク分娩等への対応も含めた役割を継続する。

〇小児二次救急体制を継続し，小児救急医療の安定的な提供に努める。

〇急性期疾患を中心に，地域の医療機関では困難な小児疾患に対応する。

具体的な取り組み

・正常分娩や高齢出産・基礎疾患等をもつ妊婦をはじめとしたハイリスク分娩への対応など質の高い周産期医療を安定的に提供するとともに，助産師外来の継続など妊婦の多様なニーズに応える

・地域で唯一の小児二次救急輪番体制確保を継続し，小児救急医療を安定的に提供する

・アレルギーをはじめとした小児疾患に対応し，医療の面から継続的な介入・支援を行う

（西神戸医療センター）

〇神戸西地域（須磨区，垂水区及び西区）の中核病院として，小児救急においては，引き続き二次救急体制に参加するとともに，全日準夜帯（17 時～24 時）の救急受入れを安定的に継続する。

〇地域の医療機関と連携し，幅広い小児疾患に対応する。

〇地域医療機関との連携及び役割分担に基づき，地域医療機関での対応が困難なハイリスクな妊婦や救急時の受入れをはじめ，地域の需要に対応し安定した周産期医療を提供することで，妊娠から出産，子どもの成長まで総合的に対応する地域周産期母子医療センターと同等の機能を果たす。

具体的な取り組み

・地域の小児医療への需要に対応し，小児救急においては，全日準夜帯（17 時～24 時）の救急受診の受け入れを継続する。また，引き続き小児救急輪番に参加し，神戸こども初期急病センターの受け皿となる等，小児医療を安定的に提供する

・合併症妊娠や切迫早産等リスクの高い妊娠への対応の充実を図ることで，質の高い周産期医療を提供する

関連指標

病院名	項　目	平成30年度実績
中央市民病院	小児科患者数入院延（人）	12,228
	外来延（人）	13,596
	小児科救急患者数（人）	1,324
	うち入院（人）	910
	ＮＩＣＵ患者数（人）	2,867
	分娩件数（件）	780
	うち帝王切開（件）	273
	ハイリスク妊娠件数（件）	77
	ハイリスク分娩件数（件）	89
	助産師外来患者数（人）	169
西市民病院	小児科患者数入院延（人）	3,047
	外来延（人）	6,943
	小児科救急患者数（人）	477
	うち入院（人）	163
	ＮＩＣＵ患者数（人）	ＮＩＣＵ未設置
	分娩件数（件）	385
	うち帝王切開（件）	86
	ハイリスク妊娠件数（件）	23
	ハイリスク分娩件数（件）	48
	助産師外来患者数（人）	418
西神戸医療センター	小児科患者数入院延（人）	8,735
	外来延（人）	19,795
	小児科救急患者数（人）	6,885
	うち入院（人）	778
	ＮＩＣＵ患者数（人）	ＮＩＣＵ未設置
	分娩件数（件）	635
	うち帝王切開（件）	228
	ハイリスク妊娠件数（件）	78
	ハイリスク分娩件数（件）	85
	助産師外来患者数（人）	139

⑶　５疾病に対する専門医療の提供

〇地域医療機関との役割分担及び連携を明確にしたうえで，各病院が有する医療機能に応じ，本市の基幹病院・中核病院として求められている高度な専門医療を提供する使命を果たす。

〇疾病構造の変化や高度に進化した治療法に対応するため，各専門職がそれぞれの専門性を発揮するとともに緊密に連携し，診療科の枠を超えた質の高い総合的な診療を充実させる。

（中央市民病院）

〇がん治療については，メディカルクラスター（神戸医療産業都市に集積する高度専門病院群）と連携し，患者のＱＯＬ（Quality Of Life，生活の質）向上のため，より身体の負担が少ない治療や検査の充実に取り組む。

〇地域がん診療連携拠点病院としての体制強化を図るほか，手術支援ロボットの活用，大学等と連携したがんゲノム医療などの高度医療に積極的に取り組む。

〇一刻を争う脳卒中や急性心筋梗塞をはじめ，脳血管障害や心血管疾患などの疾患においては，内科系医師，外科系医師，看護師及びコメディカル等がチームを組み，迅速かつ最適な医療を提供する体制を堅持する。また，糖尿病については関連診療科や神戸アイセンター病院との連携を図り，総合的な糖尿病教育・治療を行う。

〇精神疾患については，精神科身体合併症病棟を活用し，様々な患者の状態に応じた治療を行うとともに救命救急医療の更なる充実を目指す。

具体的な取り組み

・がん治療については，手術支援ロボット（ダヴィンチ）などによる患者の負担が少ない手術や化学療法，放射線治療のほか，がんゲノム医療や治験等も活用し患者のＱＯＬも考慮しながら，患者にとって最適な医療を提供する

・診断初期から医師，看護師，薬剤師，管理栄養士等多職種からなる緩和ケアチームや緩和ケア外来において，がん患者の症状コントロール，栄養管理，不安・不眠等の心理的問題への対応，患者や家族の悩み相談，開業医に対する薬剤情報提供等を行い，がん患者のＱＯＬの改善に努める

・臓器別ユニット外来において，胃がんは消化器内科や消化器外科，肺がんは呼吸器内科や呼吸器外科といった各臓器に対応可能な医師が診療にあたり，また腫瘍内科，放射線治療科，外来化学療法センター，手術部等とも協働し，専門的にがんに対応する

・５大がん（肺がん・胃がん・肝臓がん・大腸がん・乳がん）の兵庫県統一「地域連携パス」を活用し地域の医療機関との連携の下，患者の視点に立った，安心で質の高い医療を提供していくことを目指す

・新規の抗がん剤についても積極的に導入し，最適ながん薬物療法を提供する。新規の抗がん剤は未知の副作用発現の可能性もあるため，薬剤師は副作用の早期発見ならびにモニタリングに努める

・病棟および外来化学療法センターにおいて薬剤師による副作用の説明や治療開始後のモニタリングを行うことにより，安全な治療を提供する。また，外来化学療法センターでは，外来通院治療機能の充実を図るために，がん患者に対する化学療法の管理指導等を行う

・保険薬局へのレジメン情報の提供ならびに施設間薬剤情報提供書を活用した連携強化により，外来化学療法後の副作用管理ならびに経口抗がん剤服用期間中におけるアドヒアランス向上と副作用管理の安全性を確保する

・がん診療オープンカンファレンス及び研修会を開催し，地域がん診療連携拠点病院としての役割を果たす

・入院患者には，緊急入院，予定入院とも，栄養不良患者への早期介入を行い，医師看護師等と共同して改善を図る(栄養管理体制の確立)

・外来，入院ともがん患者や栄養不良，生活習慣病等栄養指導の対象となる患者には積極的に栄養指導を実施する

・脳卒中センターでは，ＳＣＵ（脳卒中ケアユニット）を引き続き設置し，救命救急センターとの連携の下，ホットラインを活用し 24 時間体制で専門医による血管内治療等脳卒中診療を行う

・心臓センターでは圏域内の心・大血管疾患の中心的病院として救命救急センターとの連携の下 24 時間対応できる体制により，救命に寄与する

・精神疾患については，精神科身体合併症病棟を活用し，精神疾患に合併した急性期の身体疾患により入院治療の必要性のある患者を受け入れていく

・引き続き，ＴＡＶＩ（経カテーテル大動脈弁治療）やＥＣＭＯ（体外式膜型人工肺）等の高度専門医療の提供を行う

（西市民病院）

〇がん治療については，患者の負担が少ない手術支援ロボットによる手術をはじめとした高水準の治療を積極的に行うとともに，化学療法の実施や他の医療機関との連携による放射線治療の充実を図る等，専門的ながん診療機能を有する医療機関としての役割を発揮する。

〇糖尿病については，教育入院や糖尿病教室を引き続き行うとともに，糖尿病地域連携パスの利用を促進する等，生活習慣病医療を強化する。また，糖尿病合併症については，院内の関係診療科との連携を図りながら取り組む。

具体的な取り組み

・がん治療については，低侵襲かつ安全な手術や臓器機能の温存術の実施，手術支援ロボット（ダヴィンチ）の活用，化学療法等に取り組むとともに，放射線治療施設を有する市関連病院や市内の医療施設と連携して放射線治療を実施する

・「がん看護相談室」を継続し，がん患者及び家族に対する精神的支援や啓発活動を行うなど，多様なニーズに対応する
・専門的ながん診療機能を有する医療機関として，薬局との連携や栄養管理を通じて質の高い医療を提供する
・緩和ケアチームをはじめとしてがん患者のＱＯＬの改善を図る
・急性心筋梗塞については，循環器内科において冠動脈造影検査や血管内治療を行うとともに，心臓リハビリテーションの充実を図る
・糖尿病については，引き続き糖尿病教室の開催に取り組むほか，関係機関と更なる連携をすすめ，地域における生活習慣病の重症化予防に貢献する
・糖尿病地域連携パスやワンタイム連携の運用により，引き続き地域医療機関との連携を図るとともに，教育入院をはじめ，院内多職種による協力のもと総合的に質の高いサポートを行い，疾患の早期治療に取り組む
・精神疾患については，各精神科病院から「精神保健福祉センター」経由で身体合併症患者を受け入れるほか，地域の専門病院との連携にも努める

（西神戸医療センター）

○がん治療については，地域がん診療連携拠点病院として，がん治療の専門性を最大限に活かし，多職種のスタッフの力を結集し，地域医療機関とともに患者・家族が安心して生活できる診療連携体制を整備・構築する。

○ＰＥＴ－ＣＴの活用によりがん診断機能を向上させるとともに，低侵襲な手術や化学療法，放射線治療を組み合わせた集学的な治療の実施及びがん相談支援センターを中心とする患者支援に取り組む。

○市民が適切な医療を身近な地域で受けられるよう，手術支援ロボットや血管造影撮影装置等の高度医療機器を活用し，内視鏡治療や血管内治療等の患者に負担の少ない低侵襲な高度専門医療を提供する。また，急性期の脳卒中症例など緊急を要する症例に対し，迅速かつ適切な医療を行う。

具体的な取り組み

・がん治療については，手術支援ロボット（ダヴィンチ）などによる低侵襲な手術や，リニアックでの高精度な放射線治療を行うなど，患者の負担が少ない高度専門医療を提供する
・ＰＥＴ－ＣＴ，ＭＲＩの活用により，更なるがん診断機能の向上を図るとともに，内視鏡センターにおける早期発見・治療，化学療法センターにおける最適ながん薬物療法など，総合的ながん診療を実施していく

・５大がん（肺がん・胃がん・肝臓がん・大腸がん・乳がん）や前立腺がん・子宮体がんの兵庫県統一「地域連携パス」を活用し地域の医療機関との連携の下，患者の視点に立った，安心で質の高い医療を提供していくことを目指す
・国立がん研究センター認定がん相談支援センターにおいて，「認定がん専門相談員」による質の高い相談体制の充実を図るほか，がん患者への支援や情報提供を行い，がん患者サロン開催や暮らしの相談（就労支援）の開催など，がん患者支援の強化を図る
・緩和ケア外来と緩和ケアチームにおいて，医師，看護師，薬剤師，管理栄養士，公認心理士，理学療法士等多職種によるがん患者の症状コントロール，不安・不眠等の心理的な問題への対応，患者や家族の悩み相談等により，がん患者のＱＯＬの改善に貢献する
・がん患者に対して，服薬の継続が困難な抗がん剤等を中心とした服薬指導，及び外来・入院それぞれの状況に応じた栄養指導を適切に行う
・脳卒中については，ホットラインの運用で，救急患者のスムーズな搬送及び受け入れ体制を継続する
・急性心筋梗塞については，ホットラインを活用するとともに，引き続き循環器内科において冠動脈造影検査や血管内治療への対応を行う
・糖尿病透析予防指導について，医師，看護師，管理栄養士が取り組み，体制の強化を図る
・入院や疾患に伴って生じるさまざまな問題について精神科リエゾンチームによる支援や，高齢者・認知症サポートチームによる支援を行うなど，患者やその家族が安心して治療を受けることが出来るよう努めていく

関連指標

病院名	項　目	平成 30 年度実績
中央市民病院	がん退院患者数（人）	4,819
	脳卒中退院患者数（人）	1,225
	急性心筋梗塞退院患者数（人）	121
	糖尿病退院患者数（人）	180
	身体合併症受入延患者数（人）	2,673
	認知症鑑別診断数（人）	108
	検査人数（ＣＴ）（人）	54,636
	検査人数（ＭＲＩ）（人）	21,964
	検査人数（ＰＥＴ）（人）	3,501
	検査人数（心臓血管造影）（人）	979
	検査人数（脳血管造影）（人）	675
	がん患者化学療法数（人）	12,510

	手術件数（入院・外来合計）（件）	10,283
	薬剤管理指導件数(件)	25,223
	栄養指導件数（合計）（件）	4,162
	リハビリ実施件数（合計）（件）	148,988
	口腔ケア実施件数(件)	2,818
西市民病院	がん退院患者数(人)	1,828
	脳卒中退院患者数(人)	46
	急性心筋梗塞退院患者数(人)	9
	糖尿病退院患者数(人)	127
	身体合併症受入延患者数(人)	90
	認知症鑑別診断数(人)	279
	検査人数（ＣＴ）（人）	16,926
	検査人数（ＭＲＩ）（人）	4,461
	検査人数（ＰＥＴ）（人）	－
	検査人数（心臓血管造影）（人）	162
	検査人数（脳血管造影）（人）	－
	がん患者化学療法数(人)	2,340
	手術件数（入院・外来合計）（件）	2,978
	薬剤管理指導件数(件)	14,485
	栄養指導件数（合計）（件）	2,231
	リハビリ実施件数（合計）（件）	36,509
	口腔ケア実施件数(件)	2,124
西神戸医療センター	がん退院患者数(人)	3,073
	脳卒中退院患者数(人)	360
	急性心筋梗塞退院患者数(人)	55
	糖尿病退院患者数(人)	103
	身体合併症受入延患者数(人)	30
	認知症鑑別診断数(人)	16
	検査人数（ＣＴ）（人）	23,572
	検査人数（ＭＲＩ）（人）	10,727
	検査人数（ＰＥＴ）（人）	1,136
	検査人数（心臓血管造影）（人）	519
	検査人数（脳血管造影）（人）	192
	がん患者化学療法数(人)	6,460
	手術件数（入院・外来合計）（件）	6,241
	薬剤管理指導件数(件)	22,673

	栄養指導件数（合計）（件）	2,324
	リハビリ実施件数（合計）（件）	51,928
	口腔ケア実施件数(件)	119

⑷　地域包括ケアシステム推進への貢献

○地域医療支援病院として地域医療機関との連携をより一層推進するため，地域医療機関のニーズを把握し，各病院の役割に応じた患者の紹介・逆紹介や医療機器の共同利用を行う。

○患者が安心して地域で療養できるように，地域の在宅診療医や介護施設，訪問看護ステーション等との多職種での連携を強化するなど，市の地域包括ケアシステム推進における市民病院としての役割を果たす。

○オープンカンファレンス等を積極的に開催し，地域の医療従事者の育成に努める。

（中央市民病院）

○地域包括ケアシステム構築に貢献するため，ケアマネジャー，在宅介護支援事業者，福祉施設等と顔の見える連携を実施するとともに，地域の医師，訪問看護師等との退院前カンファレンスを積極的に実施する。

○患者が安心して地域で療養できるように，入院初期から積極的に退院支援を行うなど，患者の状況に応じた支援を行う。特に，在宅復帰を目指す患者が在宅へ円滑に移行できるよう，回復期リハビリテーション病棟・地域包括ケア病棟を設けている病院と連携を強化する。

具体的な取り組み

・地域医療連携センターにおいて，入院前準備センター等と連携して，患者が円滑かつ安心な治療を受けられるよう支援を行う

・神戸市民間病院協会の会員病院など地域の医療機関との情報交換を密にし，急性期及び亜急性期の患者の転院や後方連携の強化に取り組む

・大腿骨頸部骨折や脳卒中等急性期から回復期へのリハビリテーションについては，地域連携パスを活用し，患者や家族のニーズを踏まえたうえで，できるだけ早期に継続したリハビリテーションが実施できるよう地域との連携を密に機能回復を図る。また，５大がんやその他の疾患についても地域連携パスの導入及び活用を進め，地域の医療機関との連携を図る

・高度医療に対応した最新医療機器の導入等により，高度医療機器の共同利用等の促進に取り組み患者にやさしい検査・治療を提供する

・地域医療機関との顔の見える連携促進を図り，新たな連携先を開拓する

・連携登録医に対しては，病院の情報を積極的に提供し連携しやすい環境を作るとともに，顔の見える連携の強化を図り，地域連携懇話会を開催する
・オープンカンファレンス,地域連携セミナー等の研修会を引き続き開催し，地域医療機関等にとって有用な情報を提供する等内容の充実に努め，院外からの参加の促進を図る
・入院を機に内服処方内容を総合的に評価したうえで，入院から外来・在宅における薬物療法において，病院と薬局薬剤師の連携のもとポリファーマシー対策を推進していく
・薬剤師が退院支援カンファレンスならびに退院前カンファレンスに積極的に参加し，地域保険薬局薬剤師の参加を促進すると共に，薬・薬連携のもと退院から在宅へのシームレスな薬物療法提供するための患者支援体制を整え地域での薬学的管理につなぐ

（西市民病院）

○市民や地域の医療機関から信頼される病院であり続けるため，各診療科の医師と地域医療機関の医師との顔の見える連携を図り，紹介・逆紹介をさらに推進し，地域医療支援病院の役割を堅持する。
○地域の訪問看護ステーションや医療，介護，福祉等の関係機関との後方支援機能を充実させる等，在宅支援を中心とした地域社会との連携を図り，入院医療から在宅医療への移行機能を強化する。
○地域の歯科診療所で診察を受けることが困難な方々に，こうべ市歯科センターと連携し，安全で安心な歯科医療サービスを提供する。

具体的な取り組み

・地域医療支援病院としての役割の継続・強化に向け，地域医療機関との連携にあたり，より丁寧な診療情報の提供に努める等,紹介・逆紹介のさらなる推進を図る
・地域医療機関訪問やオープンカンファレンスを通じて,連携強化に取り組むとともに求められる役割・課題について迅速に対応する
・地域医療連携をより一層推進するため，地域医療機関との交流会や連携の会を開催するほか50周年記念事業を実施する
・高度急性期・急性期病床の更なる活用に取り組み,急性期機能の強化を図る
・医療をとりまく環境を踏まえ,市街地西部の中核病院としての役割を検討する

（西神戸医療センター）

○地域医療支援病院として，神戸西地域の地域完結型医療を推進する。
○開院当初より開催している医師会や歯科医師会と組織する協議会や地域医師会との合同カンファレンスを実施する。医師による地域医療機関への訪問等により信頼関係を更に

深め，紹介・逆紹介の推進，円滑な転院調整等を行い，地域医療機関との役割分担を積極的に進める。

○神戸西地域の医療介護サポートセンターが主催する会議や研修会へ参加し，在宅医療・介護資源の把握や課題等を共有することで切れ目のない連携に取り組み，在宅医療への円滑な移行に努める。

具体的な取り組み

・医療機関検索システムを活用するなど，地域医療支援病院としての役割の継続・強化に向け，新たな紹介患者の増加，逆紹介のさらなる推進を図る

・診療科部長等とともに，より目的を明確化して地域医療機関訪問を行うことによって，「顔の見える連携」としてさらなる連携強化に取り組む

・各診療科・部門については，積極的にオープンカンファレンスを実施し，地域医療機関との連携強化に取り組む

・大腿骨頸部骨折や脳卒中・前立腺がんなどの疾患についても地域連携パスの導入及び活用を進め，地域医療機関との連携を図る

目標値

病院名	項　目	H30 実績	R2 目標値
中央市民病院	紹介率(%)	63.3	72.5 以上
	逆紹介率(%)	124.5	130.0 以上
西市民病院	紹介率(%)	57.8	55.0 以上
	逆紹介率(%)	101.4	100.0 以上
西神戸医療センター	紹介率(%)	75.7	70.0 以上
	逆紹介率(%)	75.6	75.0 以上

関連指標

病院名	項　目	H30 実績
中央市民病院	地域連携パス適用患者数(人)	279
	地域医療機関向け広報誌発行回数(回)	4
	オープンカンファレンス開催回数(回)	53
	オープンカンファレンス院外参加人数(人)	1,904
	退院調整実施件数(件)	2,156
	ケアマネジャーとのカンファレンス件数(件)	183
西市民病院	地域連携パス適用患者数(人)	70
	地域医療機関向け広報誌発行回数(回)	13
	オープンカンファレンス開催回数(回)	28

	オープンカンファレンス院外参加人数(人)	807
	退院調整実施件数(件)	2,047
	ケアマネジャーとのカンファレンス件数(件)	278
西神戸医療センター	地域連携パス適用患者数(人)	141
	地域医療機関向け広報誌発行回数(回)	13
	オープンカンファレンス開催回数(回)	80
	オープンカンファレンス院外参加人数(人)	1,416
	退院調整実施件数(件)	1,583
	ケアマネジャーとのカンファレンス件数(件)	417

２　中央市民病院の役割を踏まえた医療の提供

⑴　日本屈指の救命救急センターとしての役割の発揮

○日本屈指の救命救急センターとして，病院全職員が一丸となって多職種が連携した救急医療を行い，あらゆる救急疾患から市民の生命を守る。

○地域医療機関との役割分担を明確にした上で密接に連携し，よりスムーズな受入れのため，疾患に応じたホットラインを活用するなど，一刻を争う重症及び重篤な患者に対して年間を通じて24時間救急医療を提供する。

○救急医療に携わる人材の育成を更に推進し，地域における救急医療向上への役割を果たす。

具体的な取り組み

・救急病棟，ＥＩＣＵ・ＣＣＵ，第二救急病棟で構成される救命救急センター（54床）およびＭＰＵ病棟（８床）の効率的な運用と病床の一元管理の徹底に努め，病院職員が一丸となって，24時間体制であらゆる救急疾患に対応する

・チームによる救急医療体制を展開し，より迅速かつ的確な診断及び処置を行う

・脳卒中，胸痛，心臓血管外科，産科，小児科ホットラインの運用で，救急患者のスムーズな搬送及び受け入れ体制を強化する

・他院からの転送依頼については３次救急扱いとし，引き続き優先的に受け入れを行う。受け入れられなかった症例については検証を行い，応需率の向上に努める

関連指標・中央市民病院

項　目	H27 実績	H28 実績	H29 実績	H30 実績
救急外来患者数(人)	33,349	34,415	35,244	32,747
うち入院(人)	6,800	7,463	8,130	8,092
うち救急車受入(人)	8,652	9,659	10,532	10,171
救急車搬送応需率(%)	97.4	98.3	98.9	99.2

⑵　メディカルクラスターとの連携による先進的ながん治療等の提供

○グローバルな視点を持ちながら，メディカルクラスター（神戸医療産業都市に集積する高度専門病院群）との連携を推進する。

○疾患，診療内容の変化や医療需要と供給のバランスに応じて市民に最新最良の医療の提供を目指すとともに，患者のＱＯＬ（Quality Of Life，生活の質）向上のため，より身体の負担が少ない治療や検査の充実に取り組む。

○地域がん診療連携拠点病院としての体制強化を図るほか，手術支援ロボットの活用，大学等と連携したがんゲノム医療などの高度医療に積極的に取り組む。

○今後の医療の動向を踏まえ，周辺の先端医療技術の研究拠点等との連携に努めるとともに，市民の健康増進に向けた取組みに協力する。

具体的な取り組み

・がん治療については，手術支援ロボット（ダヴィンチ）などによる患者の負担が少ない手術や化学療法，放射線治療のほか，がんゲノム医療や治験等も活用し患者のＱＯＬも考慮しながら，患者にとって最適な医療を提供する

・神戸低侵襲がん医療センターや神戸陽子線センター等との連携を図り，メディカルクラスターの中核病院として，高度ながん医療の提供を行う

・５大がん（肺がん・胃がん・肝臓がん・大腸がん・乳がん）の兵庫県統一「地域連携パス」を活用し地域の医療機関との連携の下，患者の視点に立った，安心で質の高い医療を提供していくことを目指す

・がん診療オープンカンファレンス及び研修会を開催し，地域がん診療連携拠点病院としての役割を果たす

関連指標・中央市民病院

項　目	H27 実績	H28 実績	H29 実績	H30 実績
検査人数（ＰＥＴ）(人)	2,209	2,296	3,106	3,501
がん退院患者数(人)	4,214	4,464	4,645	4,819
がん患者化学療法数(人)	7,721	9,496	11,156	12,510
がん患者放射線治療数(人)	8,295	9,420	11,273	12,922
緩和ケア外来延べ患者数(人)	1,914	2,048	1,788	1,420
がん患者相談受付件数(件)	641	691	983	1,030
周辺病院からの紹介件数(件)	684	719	716	586
周辺病院への逆紹介件数(件)	1,606	1,862	1,718	2,253

⑶　神戸医療産業都市の中核機関として治験・臨床研究の更なる推進

〇神戸医療産業都市の中核機関として治験・臨床研究を積極的に推進し，生命の維持と生活の質の向上につながる新たな医療を創造することで，市民の健康の増進と医療の発展に貢献するため，臨床研究中核病院を目指す。

〇医薬品医療機器等の治験を含む臨床研究を適切に実施するため，法令や指針に則り，円滑かつ安全に研究を遂行できるよう，管理体制及び支援体制を構築する。なお，実施に際しては，患者の自由意思によるインフォームド・コンセント（患者が自ら受ける医療の内容に納得し，及び自分に合った治療法を選択できるよう，患者への分かりやすい説明を行った上で同意を得ること）を得るとともに，人権の保護，安全性の確保，倫理的配慮等を確実に行う。

具体的な取り組み

・最新の医療技術をいち早く市民に提供できるよう，治験・臨床研究の実施・支援・管理体制の充実・強化を図るとともに，臨床研究中核病院の要件である特定臨床研究や医師主導治験の実施を推進する

・認定臨床研究審査委員会（ＣＲＢ）の安定的な運営を図るため体制の確保及び特定臨床研究の継続的な審査を実施する

・講演会等を通じて臨床研究倫理についての啓発に努めるとともに，利益相反についての透明性の確保や適正な管理に取り組む

・再生医療等の高度な医療の早期実用化等に貢献するため，医療産業都市推進機構や国立研究開発法人理化学研究所神戸事業所と連携し，治験及び臨床研究に取り組んでいく

・学術研究支援部門において，研究発表の実績数及び質の向上を図るため，研究の立案から論文発表までの各段階において，統計解析，英文翻訳など，学術研究を引き続きサポートする。市民病院機構内の他病院についても可能な範囲のサポートを行い，機構全体の学術研究に対する意欲を高めていく

関連指標・中央市民病院

項　目（単位：件）	H27 実績	H28 実績	H29 実績	H30 実績
治験実施件数	117	124	175	173
受託研究件数	205	212	199	187
臨床研究件数	126	152	252	223
医師主導治験実施件数	1	3	9	9
うち研究責任者としての実施件数	0	0	1	1
特定臨床研究※実施件数	－	－	－	－
うち研究責任者としての実施件数	－	－	－	－

論文掲載件数	205	238	363	239
学会発表件数	762	860	737	802
研究計画相談件数	54	71	90	79
英語論文校閲相談	86	121	166	110
データ入力実績	8,166	11,392	14,791	14,872

※　厚生労働省令で定める基準に従って行う臨床研究

⑷　県立こども病院等と連携した高度な小児・周産期医療の提供

〇総合周産期母子医療センターとして，県立こども病院等との連携及び役割分担のもと，切迫早産，異常妊娠・分娩などの産科合併症のほか，合併症妊娠（心血管疾患，免疫血液疾患，腎疾患，感染症，精神疾患等）といった，母子にとってハイリスクとなるあらゆる出産に対し，専門各科と連携して，小児・周産期医療を安定的に提供する。

具体的な取り組み

・総合周産期母子医療センターとして， 母体リスク管理能力を活用し，合併症妊娠，重症妊娠中毒症，切迫早産，胎児異常等ハイリスク母体への診療対応を積極的に行い，低出生体重児や病気をもった新生児についても，最新の医療技術を用いた診療により，救命に努めていく

・連携登録医など地域医療機関と定期的な情報交換と患者情報の共有を図るとともに，母体搬送・産褥への受け入れ，小児科受診への円滑な対応に努める

関連指標・中央市民病院

項　目	H27 実績	H28 実績	H29 実績	H30 実績
小児科患者数入院延(人)	12,257	11,292	12,347	12,228
小児科患者数外来延(人)	15,232	13,735	13,568	13,596
小児科救急患者数(人)	3,488	2,161	1,891	1,324
うち入院(人)	853	763	874	910
ＮＩＣＵ患者数(人)	3,064	2,799	3,056	2,867
分娩件数(件)	789	797	763	780
うち帝王切開(件)	277	310	264	273
ハイリスク妊娠件数(件)	80	105	98	77
ハイリスク分娩件数(件)	140	140	95	89
助産師外来患者数(人)	338	227	224	169

⑸　第一種感染症指定医療機関としての役割の発揮

○新興感染症発生時においては，新型インフルエンザ患者の受入経験を生かし，市内唯一の第一種感染症指定医療機関として，市，県及び地域医療機関と連携を図りながら，速やかに患者を受け入れられる体制を整備し，市民の安全を確保する。

○非常時にも継続して医療を提供できるよう，平時から「新型インフルエンザ等発生における診療継続計画」等，マニュアルの整備と訓練を行うとともに，研修会への参加等に積極的に取り組み，危機対応能力を高め，自ら考え行動できる職員を育成する。

具体的な取り組み

・新興感染症発生時に対応できるよう，行政機関が行う訓練に参加する等関係機関と連携した対応を円滑に行うほか，市全域における安全確保に向けて率先した対応を行う

・エボラ出血熱をはじめとした一類感染症，鳥インフルエンザ，結核等に対応する感染症指定医療機関としての役割を果たすため，感染管理室が中心となって，職員の安全面を確保のうえ取り組む

・個人防護具着脱訓練，新型インフルエンザ発生時の患者発生時の対応訓練を継続して実施する

・市と協力し，「当院における新型インフルエンザ等発生時における診療継続計画」の内容を更新する

関連指標・中央市民病院

項　目	H27 実績	H28 実績	H29 実績	H30 実績
感染症延患者数(一類)（人）	0	0	0	0
感染症延患者数(二類)（人）	34	20	64	55
感染管理研修等実施回数(回)	80	71	57	50

３　西市民病院の役割を踏まえた医療の提供

⑴　地域の患者を 24 時間受け入れる救急医療の提供

○年間を通じて 24 時間体制で救急医療を提供し，地域住民の安心及び安全を守る。

○医師をはじめとする全職種が救急医療の重要性を認識し，地域医療支援病院としての役割として実践することで，救急車搬送応需率及び受入れ件数を高い水準で維持する。また，市や地域の関係機関と連携し，地域医療体制の確保を図るとともに，地域全体の救急医療の充実を目指す。

具体的な取り組み

・救急車搬送患者の受け入れを断った理由の分析とともに受入促進について救急委員会で引き続き検討を行い，応需率および応需件数の維持・向上を図る

・診療体制を強化するとともに，全職種・診療科による連携のもと，安定した救急医療体

制を提供する

・救急外来の拡張工事に着手し,外来ベッドの増床を行う

関連指標・西市民病院

項　目	H27 実績	H28 実績	H29 実績	H30 実績
救急外来患者数(人)	14,650	14,235	13,967	15,009
うち入院(人)	3,021	3,060	3,060	3,195
救急車搬送応需率(%)	68.3	60.3	63.1	80.1

⑵　地域のハイリスク出産に対応できる周産期医療の提供

○市街地西部における周産期医療施設として，正常分娩を中心とした質の高い周産期医療を安定的に提供するとともに，ハイリスク妊娠・ハイリスク分娩等への対応も含めた役割を継続する。

具体的な取り組み

・正常分娩や高齢出産・基礎疾患等をもつ妊婦をはじめとしたハイリスク分娩への対応など質の高い周産期医療を安定的に提供するとともに，助産師外来の継続など妊婦の多様なニーズに応える

関連指標・西市民病院

項　目	H27 実績	H28 実績	H29 実績	H30 実績
分娩件数(件)	552	479	440	385
うち帝王切開(件)	128	111	76	86
ハイリスク妊娠件数(件)	35	32	47	23
ハイリスク分娩件数(件)	36	48	59	48
助産師外来患者数(人)	599	531	419	418

⑶　地域需要に対応した小児医療の提供

○市街地西部の中核病院として，小児二次救急体制を継続し，小児救急医療の安定的な提供に努める。

○急性期疾患を中心に，地域の医療機関では困難な小児疾患に対応する。

具体的な取り組み

・地域で唯一の小児二次救急輪番体制確保を継続し,小児救急医療を安定的に提供する

・アレルギーをはじめとした小児疾患に対応し,医療の面から継続的な介入・支援を行う

関連指標・西市民病院

項　目	H27 実績	H28 実績	H29 実績	H30 実績
小児科患者数入院延(人)	3,992	3,595	3,571	3,047
小児科患者数外来延(人)	9,693	8,890	7,635	6,943
小児科救急患者数(人)	445	432	482	477
うち入院数(人)	215	189	210	163
小児アレルギー教室開催回数(回)	－	－	9	8

⑷　認知症患者に対する専門医療の提供

○認知症疾患医療センターとして，認知症疾患に対する鑑別診断等を実施し，認知症に対して進行予防から地域生活の維持まで必要となる医療を提供できる体制の構築を図る。

○市の施策である「認知症の人にやさしいまちづくり」の推進に協力するとともに，地域の医療機関と協力しながら，長田区認知症多職種連携研究会をはじめ院内外の交流会，研修会を開催するなど，認知症疾患に携わる医療，介護等の多職種の連携を強化する。

具体的な取り組み

・認知症疾患医療センターとして，認知症鑑別診断や音楽療法等の初期対応事業を引き続き実施し，神戸市の政策である「認知症の人にやさしいまちづくり」の推進に協力する

・神戸市認知症診断助成の第２段階の実施，研修会・事例検討会の開催など，地域の医療・介護機関と協力しながら認知症疾患への対応を強化する

関連指標・西市民病院

項　目	H27 実績	H28 実績	H29 実績	H30 実績
認知症鑑別診断数(件)	176	144	64	279
専門医療相談件数(件)	－	－	－	－
研修等の実施回数(回)	－	－	－	－
認知症ケア件数(件)	－	5,700	6,214	6,832

⑸　生活習慣病患者の重症化予防に向けた取り組み

○市の施策と連携し，生活習慣病患者に対する重症化予防に向けた取組みに加え，疾患の早期発見・早期治療に向けた取組みを行う。

○患者のみならず広く市民を対象とした公開講座や禁煙教室，糖尿病教室など各種教室等の充実を図り，全ての市民の健康向上のため，市とともに健康づくり施策に取り組む。

具体的な取り組み

・糖尿病については，引き続き，糖尿病教室の開催等に取り組むほか，関係機関と更なる連携をすすめ,地域における生活習慣病の重症化予防に貢献する

・糖尿病地域連携パスやワンタイム連携の運用により,引き続き地域医療機関との連携を図るとともに,教育入院をはじめ,院内多職種による協力のもと総合的に質の高いサポートを行い,疾患の早期治療に取り組む

関連指標・西市民病院

項　目	H27 実績	H28 実績	H29 実績	H30 実績
成人病関連教室等開催件数(件)	24	26	33	27
糖尿病地域連携パス連携診療所数(箇所)	88	92	93	95
糖尿病地域連携パス連携症例数(例)	382	438	484	538

4　西神戸医療センターの役割を踏まえた医療の提供

(1)　地域の医療機関と連携した 24 時間体制での救急医療の提供

○地域医療機関と連携し，引き続き年間を通じて 24 時間体制の安定した救急医療体制を提供することで，地域住民の安心及び安全を守る。

○西神戸医療センターの位置する地域特性を踏まえ，地域の中核病院として，重症・重篤な救急患者に対しても，救急隊との連携を密にし，より迅速な救命措置を行える体制の維持・向上に努める。

○全職員への救急車受入れの方針徹底と促進策の実施による救急車受入れ件数の増加に努める。

具体的な取り組み

・救急科をはじめとする全診療科の連携の下，24 時間体制の安定した救急医療体制を提供する

・救急車の応需状況を，院長・副院長会において毎週報告するとともに，受け入れられなかった救急車搬送患者について，その理由を把握し，救急車の受入れ推進方策を検討・実施する

・西消防署，垂水消防署の消防署員と意見交換を行い，救急隊との密接な連携を図る

・脳卒中，循環器，吐下血ホットラインの運用で，救急患者のスムーズな搬送及び受け入れ行う

関連指標・西神戸医療センター

項　目	H27 実績	H28 実績	H29 実績	H30 実績
救急外来患者数(人)	21,982	22,655	24,650	26,308
うち入院(人)	2,580	2,721	3,405	3,855

うち救急車受入(人)	3,082	3,493	3,559	4,255
救急車搬送応需率(%)	62.4	69.4	70.3	74.7

⑵　地域における小児救急・小児医療の拠点機能の提供

○神戸西地域（須磨区，垂水区及び西区）の中核病院として，小児救急においては，引き続き二次救急体制に参加するとともに，全日準夜帯（17 時～24 時）の救急受入れを安定的に継続する。

○地域の医療機関と連携し，幅広い小児疾患に対応する。

具体的な取り組み

・地域の小児医療への需要に対応し，小児救急においては，全日準夜帯（17 時～24 時）の救急受診の受け入れを継続する。また，引き続き小児救急輪番に参加し，神戸こども初期急病センターの受け皿となるなど，小児医療を安定的に提供する

関連指標・西神戸医療センター

項　目	H27 実績	H28 実績	H29 実績	H30 実績
小児科患者数入院延(人)	8,469	7,468	8,952	8,735
小児科患者数外来延(人)	17,451	17,987	19,375	19,795
小児科救急患者数(人)	5,720	5,781	6,529	6,885
うち入院数(人)	555	484	713	778

⑶　地域周産期母子医療センター機能の提供

○地域医療機関との連携及び役割分担に基づき，地域医療機関での対応が困難なハイリスクな妊婦や救急時の受入れをはじめ，地域の需要に対応し安定した周産期医療を提供することで，妊娠から出産，子どもの成長まで総合的に対応する地域周産期母子医療センターと同等の機能を果たす。

具体的な取り組み

・合併症妊娠や切迫早産等リスクの高い妊娠への対応の充実を図ることで，質の高い周産期医療を提供する

関連指標・西神戸医療センター

項　目	H27 実績	H28 実績	H29 実績	H30 実績
分娩件数(件)	669	640	693	635
うち帝王切開(件)	232	201	259	228

ハイリスク妊娠件数(件)	71	76	93	78
ハイリスク分娩件数(件)	79	74	102	85
助産師外来患者数(人)	205	231	149	139
低出生体重児数(人)	119	79	100	96

⑷ 幅広いがん患者への支援と集学的治療の提供

○地域がん診療連携拠点病院として，がん治療の専門性を最大限に活かし，多職種のスタッフの力を結集し，地域医療機関とともに患者・家族が安心して生活できる診療連携体制を整備・構築する。

○ＰＥＴ－ＣＴの活用によりがん診断機能を向上させるとともに，低侵襲な手術や化学療法，放射線治療を組み合わせた集学的な治療の実施及びがん相談支援センターを中心とする患者支援に取り組む。

具体的な取り組み

・がん治療については，手術支援ロボット（ダヴィンチ）などによる低侵襲な手術や，リニアックでの高精度な放射線治療を行うなど，患者の負担が少ない高度専門医療を提供する

・ＰＥＴ－ＣＴ，ＭＲＩの活用により，更なるがん診断機能の向上を図るとともに，内視鏡センターにおける早期発見・治療，化学療法センターにおける最適ながん薬物療法など，総合的ながん診療を実施していく

・５大がん（肺がん・胃がん・肝臓がん・大腸がん・乳がん）や前立腺がん・子宮体がんの兵庫県統一「地域連携パス」を活用し地域の医療機関との連携の下，患者の視点に立った，安心で質の高い医療を提供していくことを目指す

・国立がん研究センター認定がん相談支援センターにおいて，「認定がん専門相談員」による質の高い相談体制の充実を図るほか，がん患者への支援や情報提供を行い，がん患者サロン開催や暮らしの相談（就労支援）の開催など，がん患者支援の強化を図る

・緩和ケア外来と緩和ケアチームにおいて，医師，看護師，薬剤師，管理栄養士,公認心理士,理学療法士等多職種によるがん患者の症状コントロール，不安・不眠等の心理的な問題への対応，患者や家族の悩み相談等により，がん患者のＱＯＬの改善に貢献する

・がん患者に対して，服薬の継続が困難な抗がん剤等を中心とした服薬指導，及び外来・入院それぞれの状況に応じた栄養指導を適切に行う

関連指標・西神戸医療センター

項　目	H27 実績	H28 実績	H29 実績	H30 実績
検査人数（ＰＥＴ）（人）	－	－	184	1,136

がん退院患者数(人)	2,928	3,131	2,921	3,073
がん患者化学療法数(人)	5,262	5,884	6,482	6,460
がん患者放射線治療数(人)	8,630	10,112	9,791	10,227
緩和ケア外来延べ患者数(人)	380	1,198	2,085	2,629
がん患者相談受付件数(件)	727	735	917	985

⑸ 結核医療の中核機能の提供

○市内唯一の結核病床を有する病院として，結核患者の専用病棟，結核患者にも対応できる手術室などの設備を活用し，引き続き総合的な結核医療を提供する。

関連指標・西神戸医療センター

項　目	H27 実績	H28 実績	H29 実績	H30 実績
延患者数・入院(結核)（人）	10,949	10,641	11,115	10,806
延患者数・外来(結核)（人）	491	422	314	258
新規患者数・入院(結核)（人）	166	165	157	149
新規患者数・外来(結核)（人）	134	116	128	126
結核病床利用率(%)	59.8	58.3	60.9	59.2

5　神戸アイセンター病院の役割を踏まえた医療の提供

⑴ 標準医療から最先端の高度な眼科医療まで質の高い医療の提供

○地域医療機関との連携や機能分担を推進するとともに，隣接する中央市民病院との連携を行い，安全で質の高い標準医療を提供する。

○全身的な症状にも関連する眼の疾患に関して，市民病院や地域医療機関と連携して対応する。

○高機能眼内レンズ挿入術や再生医療分野など，より高度で専門性を必要とする眼疾患に対応するとともに，臨床研究及び治験を推進することで次世代医療の開発を進め，その成果を世界に発信していく。

具体的な取り組み

・紹介・逆紹介をより一層推進するため，地域医療機関のニーズを的確に把握し，広報活動を強化して必要な情報を提供するとともに，新たな連携策を検討し，眼科中核病院としての役割を果たす

・硝子体注射の件数を増加し，検査・手術等の診療体制を充実させるとともに，各部門が連携し，課題を共有し，改善を進め，病院全体としての機能強化を図る

・新たな涙道手術の実施など専門分野の充実をさらに図るとともに，網膜硝子体・緑内障等の手術の低侵襲化により，在院日数短縮および手術件数増加を進める

・中央市民病院との連携による眼科救急や全身的な症状にも関連する眼の疾患への対応を図る

・緑内障患者への薬剤師による点眼指導や服薬管理をすることで，患者のアドヒアランス向上に努める

・先進的な取り組みである運転外来などを行い，専門外来を充実させる

目標値・神戸アイセンター病院

項　目	H29 実績	H30 実績	目標値
紹介患者数(人/日)	10.7	9.6	9.4 以上
逆紹介患者数(人/日)	7.4	8.1	7.6 以上

※　紹介患者数，逆紹介患者数は令和２年度目標値

関連指標・神戸アイセンター病院

項　目	H29 実績	H30 実績
手術件数（入院・外来合計）（件）	745	2,768
うち先進医療実施件数(件)	1	145
硝子体注射件数(件)	581	2,269
専門外来患者数(人)	5,728	17,568
臨床懇話会・オープンカンファレンス院外参加者	114	106

⑵　治験・臨床研究を通じた次世代医療の開拓

○より有効で安全性の高い治療を目指し，国立研究開発法人理化学研究所（以下「理化学研究所」という。）等と緊密に協力して橋渡し研究を行い，眼疾患に係る臨床研究及び治験に積極的に取り組む。その際，患者の自由意思によるインフォームド・コンセントを徹底するとともに，人権の保護，安全性の確保，倫理的配慮等を必ず行う。

○理化学研究所等と連携してｉＰＳ細胞治療や網膜色素上皮細胞移植，培養口腔粘膜上皮細胞シートによる眼表面再建治療などの新しい眼科治療や診断法の開発を推進し，神戸医療産業都市及び日本の眼科医療に貢献する。

具体的な取り組み

・理化学研究所から研究課題を継承し，研究体制を強化するとともに，研究管理支援機能もさらに強化し，研究者が研究しやすい環境整備を進める

・再生医療に関する「疾患・組織別実用化研究拠点（拠点Ａ)」の認定を受け，ｉＰＳ細胞を用いた臨床研究の日本の拠点の一つとして研究を進める

・ｉＰＳ細胞を用いた網膜シートの移植臨床研究の準備を進め，年度内に実施する

・薬剤部主査を複数制にすることで，体制強化を図る

関連指標・神戸アイセンター病院

項　目（単位：件）	H29 実績	H30 実績
治験実施件数	0	1
受託研究件数	4	4
臨床研究件数	14	26

⑶　視覚障害者支援施設等と連携した患者の日常生活支援

○視覚障害者支援施設等と緊密に連携してロービジョンケア（視覚に障害がある人に対する支援）を進めるとともに，地域包括ケアシステムの推進につながる，重篤な眼疾患から社会生活へ復帰を支援するワンストップセンター（研究，治療，リハビリ，社会復帰までを一貫して対応する施設）としての役割を果たす。

○眼科専門病院として，全部門が来院者の特徴に配慮したサービスを提供し，患者サービスの向上に向けた取組みを推進する。

具体的な取り組み

・視覚に障害が残る患者を公益社団法人ＮＥＸＴ　ＶＩＳＩＯＮに紹介し，患者個々人が必要としているサービスや情報を提供することで，リハビリや社会復帰につなげる

・退院患者アンケートや意見箱の設置等による患者のニーズの把握に努め，院内での情報共有及び必要に応じた改善を引き続き図る

・特色ある食事の提供に努め，栄養管理面だけでなく，食器等の視覚的な面での改善を行うことでさらなる質の高い食事の提供を行う

・ロービション患者に適切な服薬支援ツールを開発するとともに，保険薬局との連携強化により，アドヒアランス向上と副作用管理により薬物療法の安全性を確保する

・視覚障害者の誘導を行うため，公益社団法人ＮＥＸＴ　ＶＩＳＩＯＮと連携し職員の誘導研修を引き続き行う

・患者サービス委員会に公益社団法人ＮＥＸＴ　ＶＩＳＩＯＮも参画し，視覚障害者である患者への患者サービスをより一層進める

・退院患者アンケートに加えて外来患者への常時アンケートを実施するとともに，自動精算機を導入するなど，待ち時間対策等患者サービスをより一層進める

関連指標・神戸アイセンター病院

項　目	H29 実績	H30 実績
ロービジョンケア施設との紹介実績（人）	197	534

⑷　診療・臨床研究を担う未来の医療人材育成

○臨床，教育，研究それぞれに取り組み，日本の眼科の未来を担う人材の育成に取り組む。

○モチベーションの好循環となるよう，医師の業績に応じて研究費を配分する制度を活用する。

具体的な取り組み

・専門性向上に向けた論文作成や学会発表などの研究･研修活動を支援することにより，眼科領域における診療と研究の両立・人材育成を推進する

・カンファレンス・勉強会・講演会などを通じて，専門性の向上を図る

・眼科単科病院の特性を生かした医師の業績に応じて研究費を配分する医師評価制度の充実を図る

・機能向上推進室を設置し，人材育成をより積極的に進めることで，医療機能や患者サービス等の機能向上を図る

・多職種勉強会やコンセプト研修に加えて，院内発表会を実施するなど研修の充実を図る

・研修が機能向上に結び付くよう病院年度計画を踏まえた各部門計画を策定し，進捗管理していく

・専攻医への教育を充実させる

・アイセンター病院への転入職員に対して事務局としても定期的に面談等を実施するなど相談体制を整備する

・コメディカルにおいても研究費等の配分を充実させることで，さらなる専門性の向上を図る

関連指標・神戸アイセンター病院

項　目（単位：件）	H29 実績	H30 実績
論文掲載件数	12	16
学会発表件数	9	78

６　共通の役割

⑴　安全で質の高い医療を提供する体制の構築

○全職員が患者の安全を最優先に万全な対応を行うことができるように，医師及び看護師等からなる医療安全管理室を中心に，医療安全に関する情報の収集及び分析を行い，医療安全対策を徹底する。

具体的な取り組み

（中央市民病院）

・各種医療技術の実施にあたっては，できるだけシミュレーション用の器具や人形を用いた研修を実施する。必要な研修を終えたものには資格証を発行し，その認証によって初めて侵襲的な処置の実施を許可する。ただし各診療科独自の専門的手技は除外する
・全職員年２回以上の医療安全研修の受講ができるよう計画的に研修企画を行う。講演会を含め，年間の計画を作成・公表し，各々の職員が計画的に受講できるように働きかける
・医療安全教育のためのケーススタディｅラーニングをベースとした機材を活用し，医療安全研修の一環とする
・医療安全マニュアルの見直しを各部門（ＫＭＣＰ，協力法人含む）において行えるよう準備し，実施する
・改定が必要なマニュアルに関しては医療安全管理会議等で討議し，決定事項について医療安全リーダーを通じて各部署の職員へ周知する
・医療安全のためのチームワーク推進活動である「ＴｅａｍＳＴＥＰＰＳ」に関しては，一般社団法人日本専門医機構の共通講習認定を受け，研修を企画・実施する
・ＲＲＳ（Rapid Response System：院内迅速対応システム）を全部署で展開しているが，平成30年８月から実施の院内発症脳梗塞に対する治療開始時間短縮を目的としたＲＲＳ起動基準変の変更と手順の迅速化による更なる成果を目指す。昨年南館も本館と同じ運用に変更し，急変時の体制を整えたが，南館の運用拡大に足る円滑な運営を継続する
・医療安全管理室・薬剤部との連携による院内講習会の開催により，医薬品適正使用の推進を啓発する
・インスリン療法に関する研修を医師・看護師・薬剤師を講師として企画し，実施する
・所見見落とし防止対策として，令和元年６月から「院内レポートチェックシステム」の運用を開始しており，今後は診療科部長やオーダー医師のシステムの活用状況を確認し，システムの更なる浸透化を図る
・他施設と相互に監査することにより，自施設の医療安全対策の質の向上を図る
・プロトコールに基づいた薬剤師と医師との協働による薬物治療管理（ＰＢＰＭ）を積極的に導入することで医師の負担軽減，安全性の向上を図る

（西市民病院）

・医療安全管理室を中心として医療安全集中管理ソフトを活用し，インシデント事例の迅速な収集と共有を図るとともに，要因分析に努め，再発防止及び発生予防に取り組む
・医療安全管理委員会を定期的に開催するとともに，業務経営会議での報告やニューズレターの発行により，各診療科･各部門に周知する

・週１回の医療安全管理室会議を継続的に開催し，迅速な情報収集と対応策の検討及び職員啓発を行う
・全職員年２回以上の医療安全研修の受講ができるよう医療安全研修会を計画的に企画・実施するとともに，医療安全教育のためのケーススタディｅラーニングをベースとした機材を活用し,医療安全研修の一環とする

（西神戸医療センター）
・医療安全集中管理ソフトを活用し，迅速な情報収集を図るとともに，週１回の医療安全推進室コア・ミーティングにおいてインシデント・アクシデントに関して分析にも努め，再発防止及び発生予防に取り組む
・医療安全推進委員会作業部会を定期的に開催するとともに，要点を病院運営協議会で報告することにより，各診療科･各部門に周知する
・改定が必要なマニュアルに関しては医療安全推進委員会等で討議し，決定事項について各部署の職員へ周知・徹底する
・全職員年２回以上の医療安全研修の受講ができるよう計画的に研修企画を行う
・人工呼吸器等，患者の生命維持に直結する医療機器等が更新等になった場合に，使用する職員に対して，臨床工学技士より操作研修や使用方法等のマニュアル配備を徹底することで，誤操作等の事故を防止する
・病院間の医療安全相互評価による情報共有と連携強化を促進することで，安全対策の質の向上を図る
・新しい医療技術を安全に導入するため，高難度新規医療技術評価委員会での審査を行う
・画像診断の既読管理システムを用いることによる，画像診断レポートの見落としを防止する
・病理診断レポートの既読管理システムを構築する

（神戸アイセンター病院）
・医療安全委員のメンバーにより院内パトロールを実施し，現状の把握とともに，提出されたレポートに関わる場面に赴き，確認動作の方法について確認・指導・検討を実施する
・全職員年２回以上の医療安全研修の受講ができるよう計画的に研修企画を行う
・改定が必要なマニュアルに関しては医療安全管理会議等で討議し，決定事項について各部署の職員へ周知・徹底する
・全職員が患者の安全を最優先に万全な対応を行うことができるよう，業務の標準化等を検討し，医療安全対策を図る

○院内で発生したインシデント（医療の全過程のうちいずれかの過程において発生した，患者・医療従事者に被害を及ぼすことはなかったが注意を喚起すべき事例）及びアクシデント（医療の全過程のうちいずれかの過程において発生した，患者・医療従事者に傷害を及ぼした事例）についての報告を強化し，その内容を分析し，法人全体で共有することにより再発防止に取り組むなど，医療安全意識を醸成する。

具体的な取り組み

（中央市民病院）

・医療安全ニュースや注意喚起文を発行するとともに，他病院での医療事故報道も含め，関連事項に関する研修会を企画し，実施する

・ＷＥＢＭＩＮＫに掲載している医療安全ニュース，安全情報，ＰＭＤＡ警告文書に関しても情報を全職員に周知する。また，当院で発生したインシデント，アクシデント事例に関しても，ＰＭＤＡ等に情報提供を行っていく

・引き続きインシデントレポート提出促進を行い，安全文化の醸成を図る。特に，医師からのインシデントレポート提出促進を図るため，他職種からのインシデントレポートで医師の関与が大きい事例等は，医療安全管理室から直接医師へレポート提出を依頼する

・レポート提出にあたっては，各科で振り返ってもらい医療の質改善を図るきっかけとするため，従来から定められている事例報告に加え，合併症報告基準を定め，提出の促進を図り，医師のレポート提出が全体の 10%になることを目標とする

・提出されたレポートについて，カルテ記録，指示内容などを確認して対応するとともに，必要時は事実確認を行うため現場視察により，問題点を明確にしたうえで，医療安全ミーティングで改善策を検討する

・アクシデント報告および患者からのクレーム事例については，報告会を開催し，医療過誤の有無，改善対策について検討する

・院内事故調査制度について，中央市民病院医療安全会議で決定した院内事故調査の方針に基づいて，院内全死亡・死産例に対して対応する。２次検証が必要な事例に関しては事例検証会を実施し，報告事例かどうかの検証と改善策について検討する

・同様のインシデント報告が続くときなどは，多職種でＲＣＡ分析を行い，改善策を検討する

・インシデント，アクシデントを未然に防ぐことを目的に，ヒヤリハット報告の提出促進を図る

（西市民病院）

・週１回の医療安全管理室会議を継続的に開催し，迅速な情報収集と対応策の検討及び職員啓発を行う

・有害事象の共有，再発防止，医療事故の発生予防のために，安全管理ニューズレターを発行し，職員への周知・徹底に努める
・引き続き，医師等からの自発的なインシデント報告を安全管理ニューズレター等で促すとともに，報告事例の改善対策について検討する

（西神戸医療センター）
・医療安全推進室長である専任医師及び専従看護師を中心とした医療安全推進室コア・ミーティングを週１回実施し，迅速な情報収集，問題点の把握・改善に努める
・注意喚起文を発行するとともに，他病院での医療事故報道も含め，関連事項に関する研修会を企画し，実施する
・アクシデント報告については，症例検討会を開催し，医療過誤の有無，改善対策について検討する
・インシデントレポート提出促進を行い，安全文化の醸成を図る。特に，医師からのインシデントレポート提出促進を図るため，医療安全推進委員会等で啓発する

（神戸アイセンター病院）
・インシデントレポート提出促進を行い，安全文化の醸成を図る
・医療安全に関するニュースや注意喚起文を発行するとともに，他病院での医療事故報道も含め，職員への周知・徹底を図る
・週１回，医療安全担当者（医師・看護師・薬剤師・視能訓練士・管理栄養士・事務局）で集まり，医療安全ミーティングを実施し，問題点の把握，検証を行う
・アクシデント事例が発生した場合は，速やかに検討会を開催し，医療過誤の有無や対策について検討する
・インシデント報告の提出促進に努める。とくに医師のレポート提出について，事例発生時に記入を促す。

○医療事故が発生した場合には，医療事故調査制度等に基づき適切な対応を取るとともに，公表指針に基づき公表し，信頼性と透明性を確保する。

具体的な取り組み

・公表にあたっては，引き続き外部委員，中央，西，西神戸医療センター及び神戸アイセンター病院を交えた市民病院医療安全会議において検討を行い，信頼性と透明性の確保に努める

○質の高い医療を提供するため，クリニカルパス（入院患者に対する治療の計画を示した日程表），臨床評価指標（ＣＩ：クリニカルインディケーター）及びＤＰＣデータ等を法人全体で共有し，相互に分析を行い，評価・活用する。

具体的な取り組み

（中央市民病院）

・クリニカルパス学会標準のマスタを導入したクリニカルパスをシステムに即した形で積極的に運用する

・臨床評価指標，医療の質評価指標（ＱＩ：クオリティインディケーター）について定期的な検討会で分析内容を検討した上で，改善策を講じ，医療の質の向上を図る

（西市民病院）

・ＤＰＣデータ分析を行い，院長ヒアリングやカンファレンスにおいて，各診療科に向けて入院診療に関する改善提案等を積極的に行う

・クリニカルパスについては，実状に合わせて追加・改定及び削除を行い，医療の標準化を進める

・クリニカルパスに関する「パスワンポイントマニュアル」やトピックスを記載したニューズレターを活用し，パスの普及を行う

・ＤＰＣデータ等を用いた臨床評価指標の見直しを検討する

・臨床評価指標を更新するとともに，電子カルテ導入によるデータの蓄積状況を踏まえ，より有用な指標の設定に向けた検討を行う

（西神戸医療センター）

・院長ヒアリング等において，ＤＰＣデータ等を参考に改善提案などを各診療科に向けて積極的に行う

・クリニカルパスについては，実状に合わせて追加・改定，及び削除を行い医療の質の標準化を進める

（神戸アイセンター病院）

・クリニカルパスについては，実状に合わせて追加・改訂，及び削除を行い医療の質の標準化を進める

○病院機能評価の受審等，外部評価も積極的に活用し，医療の質向上を図る。

具体的な取り組み

（中央市民病院）

・平成 30 年度に受審した病院機能評価の結果，指摘事項を踏まえ，引き続き医療の質の向上に取り組んでいく

・臨床検査部門において平成 31 年３月 15 日に取得した国際規格ＩＳＯ15189 の認定を維持し，引き続き医療の質の向上を図る

・卒後臨床研修評価の更新時の評価項目を踏まえ，引き続き医療の質の向上に取り組んでいく

・医療情報システムの内部監査を年１回行い，医療情報システム運用の安全性の向上を図る

・診療録監査を行い，医療の質の向上に努める

（西市民病院）

・病院機能評価の更新時の評価を踏まえ，引き続き，医療の質向上に努める（令和元年５月 17 日～令和６年５月 16 日）

・ＮＰＯ法人卒後臨床研修評価機構の施設認定更新時の評価を踏まえ，引き続き医療の質の向上に取り組んでいく（平成 30 年８月１日～令和５年７月 31 日）

（西神戸医療センター）

・病院機能評価の更新認定に向けて，受審の準備を進めるとともに，改善の必要な事項に関して対策を実践し，医療の質向上に努める

目標値

病院名	項　目	H30 実績	R2 目標値
中央市民病院	クリニカルパス適用率(%)	58.2	60.0 以上
西市民病院		46.9	50.0 以上
西神戸医療センター		59.9	60.0 以上
神戸アイセンター病院		99.8	99.0 以上

関連指標

病院名	項　目	H30 実績
中央市民病院	医療安全研修等実施回数(回)	102
	インシデントレポート数(件)	5,054
	うち医師の報告割合(%)	7.4
	職員１人あたりのインシデントレポート数(件/人)	2.8
	アクシデントレポート数(件)	6(8)
	クリニカルパス種類(種類)	447

西市民病院	医療安全研修等実施回数(回)	16
	インシデントレポート数(件) うち医師の報告割合(%)	1,673 4.8
	職員１人あたりのインシデントレポート数(件/人)	2.7
	アクシデントレポート数(件)	5
	クリニカルパス種類(種類)	225
西神戸医療センター	医療安全研修等実施回数(回)	749
	インシデントレポート数(件) うち医師の報告割合(%)	2,679 5.3
	職員１人あたりのインシデントレポート数(件/人)	3.2
	アクシデントレポート数(件)	11(24)
	クリニカルパス種類(種類)	254
神戸アイセンター病院	医療安全研修等実施回数(回)	5
	インシデントレポート数(件) うち医師の報告割合(%)	278 9.4
	職員１人あたりのインシデントレポート数(件/人)	5.1
	アクシデントレポート数(件)	2
	クリニカルパス種類(種類)	47

※（）書きは合併症（検査や治療に伴って，ある確率で不可避に生じる病気や症状）を含む。

⑵　患者の権利を尊重し，信頼と満足が得られる体制の構築

○「患者の権利章典」のもと，患者中心の医療を常に実践し，インフォームド・コンセントを徹底するとともに，患者自身が治療方針を適切に自己決定できるように支援する。

具体的な取り組み

（中央市民病院）

・患者サポートセンター（かかりつけ医相談窓口・患者相談窓口）においては，引き続き患者や家族に対する総合的支援の強化を図る。かかりつけ医相談窓口では，患者が治療の不安を解消しながら，「かかりつけ医」を持てるよう患者支援の充実と逆紹介機能の強化を図る。また，患者相談窓口では，医療・医療安全・介護・福祉等の相談について看護師と医療ソーシャルワーカーが対応する

・患者からの依頼に応じ，引き続きセカンドオピニオン（患者及びその家族が病状や治療法等について主治医と別の専門医の意見を聴くこと）についても対応する

・周術期患者を支援するための体制を整備し，医師，看護師，コメディカル等多職種の術前準備チームと術後のＡＰＳ（Acute Pain Service）チームにより，術前の身体機能評価，栄養指導，内服管理と術後の疼痛管理，吐気対策等で包括的に患者をサポート

することで，早期の離床や経口摂取につなげ，入院期間の短縮，早期社会復帰を目指す

（西市民病院）

・患者からの依頼に応じ，引き続きセカンドオピニオン（患者及びその家族が病状や治療法等について主治医と別の専門医の意見を聴くこと）についても対応する

（西神戸医療センター）

・患者からの依頼に応じ，引き続きセカンドオピニオンについても対応する

（神戸アイセンター病院）

・引き続き患者相談窓口では看護師と連携を行い，患者や家族からの医療安全等の相談を行う

・地域の医療機関と連携を行うため「かかりつけ医」を持てるよう患者等からの相談に対応するなど，患者等が安心できるように患者支援を行う

・患者からの依頼に応じ，セカンドオピニオンについても対応する

○市民病院の基本理念に基づき，常に患者やその家族の立場を考え，温かく心のこもった応対ができるよう，職員の接遇能力の向上を図る。

具体的な取り組み

（中央市民病院）

・患者やその家族，職員間の接遇能力の向上のために，接遇マナー研修を実施する

（西市民病院）

・委託職員も含めた全職員を対象とした患者応対研修やｅラーニングの活用による多職種教育を継続的に実施するなど，心のこもった医療を提供できるよう，接遇能力の向上を図る

・患者意見箱に投書された患者意見の内容と病院回答を引き続き院内に掲示するとともに，いただいた意見について改善にむけた迅速な対応に努める

（西神戸医療センター）

・病院スタッフの接遇能力向上のため，定期的に研修を実施する

（神戸アイセンター病院）

・計画的な研修実施を行い，委託職員を含めた全職員で患者に寄り添う接遇能力向上に努める

・公益社団法人ＮＥＸＴ ＶＩＳＩＯＮと連携し，視覚障害者の視点に立った研修やカンファレンスを行うことで，患者サービスの向上につなげる
・患者サービス委員会を中心に，職員の接遇に関する組織風土の醸成を図る
・機能向上推進室を設置し，人材育成をより積極的に進めることで，医療機能や患者サービス等の機能向上を図る
・多職種勉強会やコンセプト研修に加えて，院内発表会を実施するなど研修の充実を図る
・研修が機能向上に結び付くよう病院年度計画を踏まえた各部門計画を策定し，進捗管理していく

○病院長のリーダーシップのもと，職種・部門横断的に連携し，療養環境の改善や総合的な待ち時間対策及び国際化の更なる進展による多言語への対応等，だれもが利用しやすい病院づくりを行う。

具体的な取り組み

（中央市民病院）

・携帯端末を用いた呼び出しシステムによる待ち時間の有効活用及び自動精算機による会計待ち時間の短縮を推進する。引き続き外来の待ち時間調査を実施し対策を検討する
・外来に設置したデジタルサイネージを有効活用することで，患者サービス向上に努める
・ＦＡＸ予約・インターネット予約については，地域医療機関の要望に沿えるよう受け入れの円滑化に努める。また，予約患者については，診療予約時間内に診察を行うよう取り組み，地域医療機関のニーズに応じた予約取得体制を構築する
・外国人患者が安心して適切な医療を受けられるように，外国語に対応できるスタッフの配置や遠隔地通訳を含めた医療通訳制度の活用，院内表記の多言語化等の対応を行う

（西市民病院）

・総合案内機能を継続し，どの診療科を受診して良いか分からない患者へのアドバイス，患者が多い時のきめ細かい応対等を行う
・院内コンサートや夏まつりの継続開催等による，やすらぎの提供のほか，患者サービスの向上を図る
・外国人患者が安心かつ適切に医療を受けられるよう，医療通訳制度やモバイル端末などの活用を継続する

・引き続き外来の待ち時間調査を実施するとともに，自動精算機の導入等により会計待ち時間の短縮に向けた取組を進める

（西神戸医療センター）

・病棟および外来における無料Ｗｉ－Ｆｉサービスの導入，駐車場における外来患者等への一部無料サービスを実施するなど，より利用しやすい病院づくりを進める

・総合案内機能を強化し，どの診療科を受診して良いか分からない患者へのアドバイス，患者が多い時のきめ細かい応対を行う

・院内コンサートの継続開催等によるやすらぎの提供のほか，患者サービスの向上を図る

・外国人患者が安心かつ適切に医療を受けられるよう，医療通訳制度を継続する

（神戸アイセンター病院）

・待ち時間を院内で快適に過ごすための取り組みを継続して行うほか，自動精算機を導入するなど，待ち時間対策等患者サービスをより一層進める

○患者やその家族が院内で快適に過ごすことができるよう，定期的なアンケート調査や意見箱の設置等によりニーズを的確に把握し，院内で情報共有するとともに問題点の評価・改善を繰り返すことで，きめ細やかなサービスを提供する。

具体的な取り組み

（中央市民病院）

・病院スタッフの接遇や療養環境などに対する患者ニーズを患者満足度調査及び意見箱，退院時アンケート等から把握し，サービスの向上に努める

・外来待ち時間対策を検討し，さらなる待ち時間短縮に努める

・引き続き，入院前準備センターでの入院オリエンテーション，入院時のリスク評価の実施による患者への安心感・安全性の向上に努めるとともに，社会的背景の確認による早期の患者支援を図る

・病棟個室アメニティの改善など，より患者サービスの向上を図る

・ポートライナーの混雑緩和及び患者サービス向上のため，市と連携した無料バスの運行を継続する

（西市民病院）

・患者満足度調査の実施や意見箱の設置・退院時アンケート等により患者ニーズを把握し，サービス向上に努める

・引き続き，ボランティアとの意見交流会を定期的に実施し，患者ニーズの把握を行い，必要な改善を行う

（西神戸医療センター）

・患者満足度調査の実施や提案箱の設置等により患者ニーズを把握し，サービス向上に努める

・入院前支援センターを拡充し，入院時のリスク評価の実施による患者への安心感・安全性の提供に努めるとともに，社会的背景の確認による早期の患者支援を図る

・引き続きボランティアとの意見交流会を定期的に実施し，現場での患者ニーズの把握を行い，必要な改善を行う

（神戸アイセンター病院）

・患者満足度調査や患者意見箱，退院時アンケート等で患者ニーズを把握に努め，院内での情報共有，必要に応じた改善を図る

・外来患者アンケートの常時実施し，さらなる患者ニーズの把握に努める

関連指標

病院名	項　目	平成 30 年度実績
中央市民病院	患者満足度調査結果※（入院）（%）	99.5
	患者満足度調査結果※（外来）（%）	97.2
	患者応対研修等参加者数(人)	2,756
	医療通訳実施件数(件)	404
西市民病院	患者満足度調査結果※（入院）（%）	95.1
	患者満足度調査結果※（外来）（%）	93.3
	患者応対研修等参加者数(人)	61
	医療通訳実施件数(件)	243
西神戸医療センター	患者満足度調査結果※（入院）（%）	97.8
	患者満足度調査結果※（外来）（%）	93.0
	患者応対研修等参加者数(人)	39
	医療通訳実施件数(件)	7
神戸アイセンター病院	患者満足度調査結果※（入院）（%）	100.0
	患者満足度調査結果※（外来）（%）	94.4
	患者応対研修等参加者数(人)	53
	医療通訳実施件数(件)	23

※　満足＋やや満足の割合

⑶　市民への情報発信

○各病院の役割や機能，特色，治療方針，地域医療機関との連携状況及び経営状況について市民及び患者に広く知ってもらうため，広報誌やホームページを活用して，積極的に情報を発信する。

具体的な取り組み

（中央市民病院）

・引き続き，市民への情報提供を強化するために，ホームページの充実や適宜更新に努めるとともに，患者向け広報誌「しおかぜ通信」を定期的に発行する等市民に適切な情報をわかりやすく提供する

（西市民病院）

・利用者及び一般市民を対象とした広報誌「虹のはし」の発行やホームページを活用し，診療情報や新しい取り組みについて情報を提供する

（西神戸医療センター）

・市民への情報提供を強化するために，ホームページを刷新する。また，患者向け広報誌「そよかぜ」を定期的に発行するなど，市民に適切な情報をわかりやすく提供する

（神戸アイセンター病院）

・ホームページ等を通じて，診療情報や新しい取り組みについて市民に分かりやすく提供するとともに，定期的な広報を行うことで，積極的に市民への情報提供を行う
・広報活動を強化するために広報委員会を設置する

○市民の健康向上のため，最新の治療情報や日常生活の注意点等を公開講座，各種教室等を通じて発信し，市とともに健康づくり施策に取り組む。

具体的な取り組み

（中央市民病院）

・地域がん診療連携拠点病院として，院内外を問わず，あらゆるがんの患者やその家族への開かれた相談窓口として運営していく
・がん相談支援センターにおいて，がん患者への支援や情報提供を行い，「がん市民フォーラムｉｎ　ＫＯＢＥ」，がんサロン開催や暮らしの相談（就労支援）に取り組む等，がん患者支援の強化を図る
・糖尿病教室や消化器病教室等各種患者及び市民向け教室の開催と充実に取り組む
・健康・疾病予防・疾病と食事の関連を具体的に示し，情報を発信する

（西市民病院）

・市民公開講座や患者向け教室において，医師やコメディカルがそれぞれの立場で講師を行うとともに，50 周年記念事業を実施し，市民の健康向上や患者へのきめ細かい情報提供に努める

（西神戸医療センター）

・院内外を問わず，あらゆるがんの患者やその家族への開かれた相談窓口としてがん相談支援センターを運営していく

・糖尿病教室や禁煙教室，がんサロン等各種患者向け教室及び「身近な保健医療講座」，「がん市民フォーラムｉｎ ＫＯＢＥ」等の市民向け講座の開催と充実に取り組む

（神戸アイセンター病院）

・関係団体と連携のもと，生活支援等に関する情報を発信し，治療のみならず生活支援も含めた橋渡しの役割を果たす

・公益社団法人ＮＥＸＴ ＶＩＳＩＯＮと連携し，市民公開講座を行う

関連指標

病院名	項　目（単位：回）	H30 実績
中央市民病院	各種教室等開催回数	33
	市民向け広報誌発行回数	4
	ホームページアクセス回数	2,952,299
西市民病院	各種教室等開催回数	35
	市民向け広報誌発行回数	3
	ホームページアクセス回数	201,596
西神戸医療センター	各種教室等開催回数	29
	市民向け広報誌発行回数	3
	ホームページアクセス回数	368,202
神戸アイセンター病院	各種教室等開催回数	－
	市民向け広報誌発行回数	4
	ホームページアクセス回数	75,268

第２　業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

１　優れた専門職の確保と人材育成

○職員一人ひとりがより良い将来の展望を持てるよう，働きがいのある職場環境を構築するとともに働き方の改革を推進し，優れた専門職の確保と人材育成に取り組む。

○女性の活躍できる労働環境の整備を推進するとともに，全職員がワークライフバランス（仕事と生活の調和）と自己研鑽の両立が可能となるよう取り組む。特に医師については，国の動向も踏まえ，積極的に時間外勤務時間の削減に努める。

⑴　職員の能力向上等への取り組み具体的な取り組み

○市民病院職員としての使命感を持ち，高い専門性と協調性，豊かな人間性を兼ね備えた医師，看護師，コメディカルスタッフ，事務職員等の確保・育成に継続して取り組む。

○すべての職員が必要な技能や知識を習得できるよう教育及び研修制度を充実し，４病院体制での人事交流やジョブローテーションの観点を踏まえ，指導者も含めた次世代医療を担う人材を育成する。特に病院経営や臨床研究に関する人材確保と育成に努める。

具体的な取り組み

（法人本部）

・診療報酬請求業務について，業務内容の総点検や外部機関による精度管理により見直すとともに，医事課中堅職員等で編成するプロジェクトチーム等により，制度を熟知した職員の人材育成の強化にも可能な限り早期に着手する

・段階的な診療報酬請求業務の内製化について，検討を行う

・柔軟な採用形態を用いて，引き続き，専門的な知識や経験を有する職員の確保に努める

・事務・医療技術・看護職員について，神戸市及び民間の就職説明会への参加やホームページを含む各種媒体を用いた積極的な採用活動を展開するとともに，看護職員については，西日本を中心に，九州地方から北陸地方の養成学校への訪問を行うなど，引き続き，優れた職員の確保に努める

・各階層における研修や，資格取得支援制度，研究休職制度，短期国内外派遣制度，自己啓発等休業制度及び看護職員に対する留学制度を継続的に実施し，職員の資質や専門性の向上を図る

・事務職員について，優秀な職員確保・育成のためのワーキングチームによる検討を継続し，採用活動及び基礎教育期間の教育の大幅な見直しに着手するとともに，キャリアパスへの取り組みを開始する

・４病院合同学術研究フォーラムを開催して研究発表の機会を設け，職員の専門性，学術研究に対する意識の向上を図る

（中央市民病院）

・薬剤師レジデント制度，リハビリ職員レジデント制度，管理栄養士レジデント制度，放射線技師レジデント制度を活用し，優れた医療スタッフの育成ならびに確保に努めるとともに優れた専門職を地域に輩出する

・学術研究支援部門内外のスタッフによるセミナー，講習会を開催し，学術研究の一助とする
・人材育成センターを利用した教育・研修機能を強化するとともに，多職種研修等の企画・実施により，優れた能力と豊かな人間性を持った医療人を育成する
・臨床研修センターが中心となって研修環境の整備や研修生活の充実等の支援を行うことにより，研修医のモチベーションの向上を図る
・新専門医制度に円滑に対応し，人材の確保に繋げるため，臨床実習や臨床研修，専門医研修等の支援体制の構築を進める

（西市民病院）
・新専門医制度に円滑に対応し，人材の確保に繋げるため，臨床実習や臨床研修，専門医研修等の支援体制の構築を進める
・ｅラーニングの活用による多職種教育の実施等，職員の必要な技能や知識の習得にむけた支援を行う

（西神戸医療センター）
・学術研修部を中心に，臨床実習や臨床研修，専門医研修等の研修支援体制の充実を図る
・事務職員に対する研修環境の構築のほか，各職種への教育体制の充実等に引き続き取り組むことにより，職員の資質や専門性の向上を図り，病院運営の中心となるべき人材を育成する

（神戸アイセンター病院）
・学会や院内外の研修会等にも積極的に参加し，すべての職員が必要な技能や知識の習得に努める
・院内での部門ごとの勉強会や複数部門合同での勉強会を実施する
・機能向上推進室を設置し，人材育成をより積極的に進めることで，医療機能や患者サービス等の機能向上を図る
・多職種勉強会やコンセプト研修に加えて，院内発表会を実施するなど研修の充実を図る
・研修が機能向上に結び付くよう病院年度計画を踏まえた各部門計画を策定し，進捗管理していく

関連指標

病院名	項　目（単位：人）	H30 実績
中央市民病院	専門医数（延人数）	321
	認定医数（延人数）	193
	臨床教授等（延人数）	22
	研修指導医数（延人数）	136
	専門看護師数（合計）	11
	認定看護師数（合計）	29
	研究休職制度等利用者数	3
	資格取得支援制度利用者数	12
西市民病院	専門医数（延人数）	120
	認定医数（延人数）	87
	臨床教授等（延人数）	6
	研修指導医数（延人数）	37
	専門看護師数（合計）	5
	認定看護師数（合計）	10
	研究休職制度等利用者数	1
	資格取得支援制度利用者数	9
西神戸医療センター	専門医数（延人数）	156
	認定医数（延人数）	66
	臨床教授等（延人数）	4
	研修指導医数（延人数）	101
	専門看護師数（合計）	5
	認定看護師数（合計）	16
	研究休職制度等利用者数	0
	資格取得支援制度利用者数	11
神戸アイセンター病院	専門医数（延人数）	8
	認定医数（延人数）	7
	臨床教授等（延人数）	1
	研修指導医数（延人数）	4
	専門看護師数（合計）	－
	認定看護師数（合計）	－
	研究休職制度等利用者数	0
	資格取得支援制度利用者数	1

⑵　職員が意欲的に働くことのできる人事給与制度の構築

○全職員が意欲的に働くことができるよう，職員の能力や貢献度が各病院の特性に応じて適正に評価される人事給与制度を構築する。

具体的な取り組み

（法人本部及び共通）

・全職種において人事評価を実施し，組織目標の達成や個人の能力伸長を図る

・法人職員の主任選考を実施し，意欲の高い職員を積極的に登用する

・職務発明規程に基づき，産業財産権の管理を適切に行う体制を構築する

○全職員が高いパフォーマンスを発揮できるよう，ＩＣＴの活用や柔軟な勤務制度の導入を検討する。また，ワークライフバランスの確保に向けた取組みを実施する。

具体的な取り組み

（法人本部及び共通）

・ＷＥＢ会議の積極的導入など，ＩＣＴの利活用による効率的な業務運営に取り組む

・育児・介護と仕事を両立できるよう，育児・介護に関する制度の充実を図る

（中央市民病院）

・職種間の業務分担見直しや業務改善を行うとともに，国が進める医師の働き方改革等に沿って，一層の時間外労働の削減に取り組み，女性や子育て世代など，すべてのスタッフが働きやすい労働環境の整備に努める

・育児をしながら安心して勤務が続けられるよう，引き続き院内保育所の利用しやすい運営に努める。また，病児保育についても利用しやすい運営となるよう努め，職員が働きやすい職場づくりをより一層図る

（西市民病院）

・職員の出退勤時間を適切に把握するとともに，計画的な休暇取得の推進等，職員の健康確保，ワークライフバランスの向上，働きやすい職場づくりの推進を図る

・育児をしながら安心して勤務が続けられるよう，病児保育所の運営を行い，働きやすい職場環境づくりの改善を図る

（西神戸医療センター）

・医師事務作業補助者の外来への導入拡大等のタスクシフティングを推進するとともに，ＩＣＴを活用した業務の効率化や柔軟な勤務制度の活用等による時間外労働の適正化など，働き方改革を進める

・院内保育所の定員を拡大し，育児をしながら安心して勤務が続けられる環境づくりに取り組む。また，病児保育の運営を引き続き行う

（神戸アイセンター病院）

・勤務管理システムの導入により職員の出退勤時間を適切に把握するとともに，職員の健康確保，ワークライフバランスの向上，働きやすい職場環境づくりの推進を図る

・院内保育及び病児保育については，中央市民病院と連携し，育児をしながら安心して勤務が続けられる体制を確保する

○医師をはじめとする職員の負担軽減と医療の質の向上を両立させるため，業務の効率化を進めるとともに，業務の量や質に応じた適切な人員配置を行う。

具体的な取り組み

（法人本部及び共通）

・健康診断受診率 100%の達成や面接指導の取り組みをはじめ，健康確保のための就業上の措置を計画的に推進する

・医療クラークや病棟クラーク等を活用するとともに，特定行為に係る看護師の育成支援にも取り組み，職種間における連携や役割分担を引き続き進める

（中央市民病院）

・外来クラークと文書作成補助等を行う医療クラークについて，引き続き業務内容の検討を行う

・病棟クラーク及びナースエイドを活用し，看護職員等の負担軽減を図る

・ＤＰＣ管理室の体制を強化し，医師の負担軽減に努める

（西市民病院）

・外来クラークや病棟クラーク等の配置を継続し，職種間の連携や役割分担により，医師・看護職員の負担軽減に努める

・多職種連携のもとタスクシェアリング・シフティングの推進，業務の効率化，労働時間の適正化など，医療従事者の負担軽減，働き方改革の推進に取り組む

（西神戸医療センター）

・外来クラークや病棟クラーク，ナースヘルパーやナースサポーター等の配置を継続し，職種間の連携や役割分担により，医師・看護職員の負担軽減に努める

・医師事務作業補助者の体制強化に取り組むことによる医師の負担軽減及び職種間における連携や役割分担を引き続き進める

（神戸アイセンター病院）

・外来クラークや病棟クラークを配置し，職種間の連携や役割分担や書類作成補助により，医師をはじめとした医療職全体の負担軽減に努める

関連指標

病院名	項　目	H30 実績
中央市民病院	医師事務作業補助者の配置数(人)	91
	１人あたりの年次有給休暇消化数(日/人)	8.2
西市民病院	医師事務作業補助者の配置数(人)	25
	１人あたりの年次有給休暇消化数(日/人)	9.4
西神戸医療センター	医師事務作業補助者の配置数(人)	9
	１人あたりの年次有給休暇消化数(日/人)	7.8
神戸アイセンター病院	医師事務作業補助者の配置数(人)	10
	１人あたりの年次有給休暇消化数(日/人)	8.7
法人本部	医師事務作業補助者の配置数(人)	－
	１人あたりの年次有給休暇消化数(日/人)	7.7

項　目	H30 実績
健康診断受診率(%)	100.0

⑶　人材育成等における地域貢献

○公的病院の使命である救急及び高度・急性期医療に加え，福祉との連携を踏まえた地域医療等を学ぶ場として，初期研修医及び専攻医のみならず，医学部生，看護学生，薬学部生をはじめとした，医療系学生及び地域医療を支える人材を積極的に受け入れる体制の充実等，地域における優秀な人材の育成と医療の質向上に貢献する。特に，新専門医制度への対応や，神戸市看護大学をはじめとした神戸市内の看護学生の受入れに努める。

具体的な取り組み

（法人本部及び共通）

・潜在看護師の復職支援対策として，兵庫県看護協会が実施する合同就職説明会への参加や，各病院において研修会を開催し，潜在看護師の復職支援についての取り組みを進める

・神戸市看護大学等と連携を図り，看護学生の受け入れを行い，看護学生の能力向上に寄与する

（中央市民病院）

・医師，看護師，薬剤師等医療系学生の卒前教育としての実習を積極的に受け入れる

・「がん専門薬剤師研修施設」として，資格取得を目指す薬剤師を外部より受け入れ，講習会等を開催する

（西市民病院）

・薬剤師等,医師・看護職員以外の専門職についても引き続き学生等の受け入れを行い，人材の育成に貢献する

（西神戸医療センター）

・薬剤師や技師等,医師・看護職員以外の専門職についても引き続き学生等の受け入れを行い，人材の育成に貢献する

（神戸アイセンター病院）

・医師，視能訓練士等の医療系学生の実習を引き続き受け入れ，人材の育成に貢献する

関連指標

病院名	項　目（単位：人）	H30 実績
中央市民病院	講師派遣数（延べ人数）	1,178
	初期研修医数	41
	専攻医数	114
	学生実習等受入人数（医学部・歯学部生）	953
	〃（看護学生）	3,925
	〃（薬学部生）	2,186
	〃（臨床検査）	183
	〃（診療放射線）	122
	〃（理学療法・作業療法・言語聴覚）	2,307
	〃（臨床工学）	373
	〃（栄養管理）	120
	〃（視能訓練）	－
西市民病院	講師派遣数（延べ人数）	86
	初期研修医数	16
	専攻医数	24
	学生実習等受入人数（医学部・歯学部生）	307
	〃（看護学生）	1,862

	〃（薬学部生）	840
	〃（臨床検査）	154
	〃（診療放射線）	－
	〃（理学療法・作業療法・言語聴覚）	176
	〃（臨床工学）	70
	〃（栄養管理）	200
	〃（視能訓練）	－
西神戸医療センター	講師派遣数（延べ人数）	218
	初期研修医数	19
	専攻医数	29
	学生実習等受入人数（医学部・歯学部生）	350
	〃（看護学生）	2,828
	〃（薬学部生）	667
	〃（臨床検査）	104
	〃（診療放射線）	233
	〃（理学療法・作業療法・言語聴覚）	258
	〃（臨床工学）	41
	〃（栄養管理）	75
	〃（視能訓練）	362
神戸アイセンター病院	講師派遣数（延べ人数）	45
	初期研修医数	－
	専攻医数	1
	学生実習等受入人数（医学部・歯学部生）	28
	〃（看護学生）	－
	〃（薬学部生）	－
	〃（臨床検査）	－
	〃（診療放射線）	－
	〃（理学療法・作業療法・言語聴覚）	－
	〃（臨床工学）	－
	〃（栄養管理）	－
	〃（視能訓練）	34

２　効率的な業務運営体制の構築

⑴　ＰＤＣＡサイクルが機能する仕組みの構築及び法令遵守（コンプライアンス）の徹底

○全職員が目標及び課題を共有し，各年度計画の進捗管理をＰＤＣＡサイクル（計画，実行，評価及び改善の４段階を繰り返すことによって業務を継続的に改善すること）に基づき確実に行うことにより，経営改善に取り組み，長期的視点に立った質の高い経営を進める。

○理事長のリーダーシップのもと，常任理事会，理事会が運営に関するチェック機能を働かせ，課題が発見された際は迅速な対応を行う。

具体的な取り組み

（法人本部及び共通）

・月次決算や四半期毎の決算見込みと予算を比較，分析し，課題の把握及び収支改善に向けた取り組みを実施していく

・（医師）時間外労働の上限水準を第３期中期計画期間中の早期に達成できるよう，引き続き，各病院の状況に応じた時間外勤務の適正化に取り組む

・（全職種）法令遵守及び職員の健康確保の観点から，毎月の常任理事会で時間外勤務や休暇取得の状況報告を行うなど，引き続き，時間外勤務の適正化や休暇取得の推進を図る

・年度計画について，四半期ごとに現状分析を行った上で，目標の確実な達成に向け，取り組みを進める

○市民病院としての使命を適切に果たし，市民からの信頼を確保するために，医療法（昭和23 年法律第 205 号）をはじめ市の条例が適用される個人情報保護や情報公開等も含めた関係法令の遵守の徹底と業務運営の透明化を推進する。

具体的な取り組み

（法人本部）

・コンプライアンスの重要性を全職員が認識・実践することを目的として，引き続き，職場内研修や新規採用職員研修・フォローアップ研修等の各階層における研修において，コンプライアンスや服務事故防止策等を取り入れた研修を実施する

○臨床研究を含めた業務全般について内部監査を実施するとともに職場研修を定期的に実施するなど，法令及び行動規範遵守の重要性を全職員が認識し，実践する。

具体的な取り組み

（法人本部）

・臨床研究をはじめとした科研費等の外部資金に係る内部監査，特定臨床研究に関する監査等を実施する

関連指標

項　目	H30 実績
コンプライアンス研修等実施回数(回)	6
コンプライアンス研修受講率(%)	100.0

⑵　市民病院間における情報連携体制の強化

○医療情報についてのシステム最適化に向けた検討や診療情報の相互閲覧など，４病院を連携していく取組みを推進するとともに，統括できる体制を強化する。

具体的な取り組み

（法人本部）

・４病院の医療情報システムの最適化について，令和８年度までをプロジェクト期間とする基本方針を策定する

・基本方針に基づいて，理事長をトップとし，常任理事をメンバーとした委員会を立ち上げるとともに，それを具体的に検討する下部の会議体（ワーキング）を各病院で開催する

・ＤＷＨなど一部の部門システムについては，システム最適化の先行実施を図るため，システム統合化の実施設計（仕様書作成）を行う

○高度化するサイバー攻撃等の情報セキュリティリスクに対し，これを回避，低減する技術的対策を講じるほか，定期的な人的訓練を職員に対して実施することにより安全性を高め，病院間の情報連携を推進する。

○各病院間の連携会議や研修会等を積極的に開催し，法人内の情報連携を促進する。

具体的な取り組み

（法人本部）

・セキュリティの強化を目的とした段階的取り組みをさらに進め，機構全体の安全なネットワーク環境を構築する

・全職員を対象とした情報セキュリティ研修を実施する

・情報システムだけでなく，関連するネットワークやメンテナンス用回線も含めた脆弱性について調査を進める

・標的型攻撃メールに対する抜打ち訓練を年１回以上実施する

・情報セキュリティに関する内部監査を実施する

・研修会等を含む連携会議を定期的に開催し，各病院職員の知識・技術の習得を進める

・セキュリティリスクを精査し，システムの運用管理規程やマニュアル類の現状に合わせた見直しを行う

・各部門における連携会議や研修会を実施するとともに，研究成果を発表する機会を設け，病院間連携を積極的に促進する

関連指標

項　目	H30 実績
情報セキュリティ訓練等実施回数(回)	13

第３　財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置

１　経営改善の取り組みと経常収支目標の達成

〇運営費負担金交付のもと，市民病院としての役割に応じた政策的医療を提供し，各病院が経営改善の取組みを進め，機動的かつ戦略的な病院経営を行うことで，年度ごとの経常収支目標を達成する。

〇効率的な病床運営，地域医療機関との連携推進等による新規患者の確保，診療機能の強化等により医業収益を確保するとともに経費削減に努め，法人全体で収支を均衡させるよう取り組む。

⑴　中央市民病院

〇南館の更なる活用に向けて，本館との一体的な病床運営や手術部門，外来部門，救急部門など各部門の診療機能の強化に取り組むとともに，新たな診療報酬加算の検討等，医業収益の増収を図る。

〇材料費の削減，効率的・効果的な業務執行など，費用の削減に努め，職員一丸となって経営改善を行う。

具体的な取り組み

・診療科別原価計算を活用した院長ヒアリングを年２回実施し，各診療科の傾向把握・分析を通じて，機動的・戦略的に課題解決を行い,診療機能を強化させるとともに,各診療科部長が経営の視点を踏まえて業務を行うことを徹底し，安定した経営基盤の確立に取り組む

・診療報酬改定に対応しながら，南館を含めた病床の一元的管理を徹底し，救急部門，重症部門の効率的な運用を図るとともに，年間を通じて安定した病床運営に取り組む

・専門外来等を積極的にＰＲし，新たな患者獲得を図るとともに，紹介・逆紹介をより一層推進し，地域医療機関との連携を進め新規患者確保に努める

・手術室の安全で効率的な運用を行い，手術室稼働を高水準で安定させるとともに，外来化学療法センターや,眼科跡地改修により増設した診察室を有効活用し，より一層外来機能を充実させる

・システムや医療機器の更新時期を調整する等，減価償却費の平準化を図る工夫を行う

・常任理事会へ毎月経営指標を報告することにより，定期的に経営指標の確認を行うとともに，経費については，経費比率を意識しながら適切な執行管理に努める
・ＤＰＣ管理室の体制を強化し，入力項目等について医師の負担軽減に取り組むとともに，ＤＰＣデータを活用して，疾患ごとの入院期間の適正化について提案を行い，収益の改善に努める
・在庫管理については,使用実績を基に適正な在庫数量を設定し，在庫金額削減に努める
・民間の共同購入組織に加盟し，引き続き診療材料の一部を共同購入するとともに，薬価改定の動向も考慮し，後発薬品への積極的な切り替え検討や薬価交渉をさらに強化するなど，材料費の削減に努める
・ＰＦＩ業務をはじめとした委託業務の内容見直しを継続的に行い，経費の削減に努める

目標値・中央市民病院

項　目	H27 実績	H28 実績	H29 実績	H30 実績	R2 目標値
医業収支比率(%)	96.5	97.7	99.1	97.0	97.1 以上
経常収支比率(%)	99.7	99.7	101.0	99.7	100.1 以上
病床利用率(%)	92.5	94.1	92.9	90.7	93.0 以上
平均在院日数(日)	10.8	10.4	10.4	10.9	10.4 以下
新規患者数（入院）（人）	21,559	22,701	23,288	22,724	23,941 以上
新規患者数（外来）（人）	86,688	86,392	88,352	89,443	91,312 以上

※　医業収支比率は運営費負担金を含まない。
※　病床利用率，平均在院日数は感染症病床及びＭＰＵ病床を含まない。

関連指標・中央市民病院

項　目	H27 実績	H28 実績	H29 実績	H30 実績
単年度資金収支(百万円)	▲1,435	▲900	1,317	▲571
給与費比率(%)	46.3	46.2	44.6	44.7
材料費比率(%)	30.5	31.1	32.0	31.8
経費比率(%)	17.6	17.6	18.1	19.3
運営費負担金比率(%)	7.2	6.7	7.4	8.0
手術件数（入院・外来合計）（件）	12,544	13,177	12,500	10,283
患者１人当たりの診療単価（入院）（円）	93,246	95,833	98,286	97,578
患者１人当たりの診療単価（外来）（円）	17,717	19,172	20,767	22,412
査定減率（入院）（%）	0.61	0.94	1.10	1.16

査定減率（外来）（%）	0.16	0.14	0.20	0.28

⑵　西市民病院

○地域医療支援病院としての役割を果たし続けていくため，医師の確保等による診療科の強化，救急車受入れ方針の徹底による応需率の向上，外来機能の強化に加え，地域医療機関との連携強化等による増収を図る。

○新たな診療報酬加算の検討等による増収，粘り強い価格交渉等による費用の削減に積極的に取り組む。

○効果的な経営分析や院内外に向けた情報発信の強化に努め，院内全体での経営改善に努める。

具体的な取り組み

・院長ヒアリングの機会を活用し，各診療科・部署と目標および課題の共有を行い,経営の視点を踏まえた業務の執行を促す

・新たな施設基準や診療報酬加算の取得等,診療報酬改定の機会を捉え,収益の最大化に努めるとともに,体制の最適化や徹底した価格交渉等による費用の効率化について取組みを進め,経常収支の黒字化を図る

・紹介・逆紹介のより一層の推進，地域医療機関との連携強化とともに，新規患者確保に努める

・看護部病床一元管理者や地域医療部による連携のもと，午前退院・午後入院を含め，円滑かつ効率的な病床利用に努める

・常任理事会へ毎月経営指標を報告することにより，定期的に経営指標の確認を行う

・環境の変化等に対応すべく情報収集・分析を行うとともに，経営改善に向けた取組みを着実に進める

・材料費の価格交渉と在庫管理の強化を継続的に実施する

目標値・西市民病院

項　目	H27 実績	H28 実績	H29 実績	H30 実績	R2 目標値
医業収支比率(%)	92.1	91.0	90.1	86.6	95.2 以上
経常収支比率(%)	98.1	96.5	96.1	95.6	100.1 以上
病床利用率(%)	83.5	85.6	87.9	88.3	90.8 以上
平均在院日数(日)	12.3	12.4	12.8	13.1	12.3 以下
新規患者数（入院）（人）	8,934	8,992	9,009	8,838	9,651 以上
新規患者数（外来）（人）	23,081	21,524	20,366	20,721	22,003 以上

※　医業収支比率は運営費負担金を含まない。

※　平均在院日数は地域包括ケア病棟を含まない。

関連指標・西市民病院

項　目	H27 実績	H28 実績	H29 実績	H30 実績
単年度資金収支(百万円)	▲383	▲320	▲301	▲537
給与費比率(%)	57.4	58.8	59.8	60.4
材料費比率(%)	25.0	25.6	25.2	24.8
経費比率(%)	16.6	16.2	16.4	16.7
運営費負担金比率(%)	8.7	8.0	8.7	8.9
手術件数（入院・外来合計）(件)	2,899	3,032	2,930	2,978
患者１人当たりの診療単価（入院）(円)	53,385	53,698	52,759	53,027
患者１人当たりの診療単価（外来）(円)	13,628	14,732	14,650	14,947
査定減率（入院）(%)	0.38	0.32	0.47	0.52
査定減率（外来）(%)	0.29	0.34	0.32	0.31

⑶　西神戸医療センター

○高齢化等による地域医療需要の変化に対応し，地域医療機関との連携強化，救急車の積極的な受け入れによる新規患者の確保に努めるとともに，新たな診療報酬加算の取得による増収に取り組む。

○診療材料の採用品目見直し，価格交渉等による材料費の削減，及び業務の効率化による経費の削減等に取り組む。

具体的な取り組み

・年２回の院長ヒアリングを実施することで，経営状況について直接各診療科部長に伝達するとともに，経営の視点を踏まえて業務を行うことを促進し，安定した経営基盤の確立に取り組む

・紹介・逆紹介をより一層推進し地域医療機関との連携を強化するとともに，救急車の積極的な受入れによる新規患者確保に努める

・ＰＥＴ－ＣＴや，内視鏡センター，外来化学療法センターなどの機能を活用することで，医業収益の確保を進める

・診療報酬制度と診療報酬請求内容の分析を徹底し，収入増に繋がる新たな加算の取得等に積極的に対応する

・システムや医療機器の更新時期を調整する等，減価償却費の平準化を図る

・常任理事会へ毎月経営指標を報告することにより，定期的に経営指標の確認を行うとともに，経費については，経費比率を意識しながら適切な執行管理に努める

・在庫管理については,使用実績を基に適正な在庫数量を設定し，在庫金額削減に努める

目標値・西神戸医療センター

項　目	H27 実績	H28 実績	H29 実績	H30 実績	R2 目標値
医業収支比率(%)	－	－	99.5	100.7	99.1 以上
経常収支比率(%)	－	－	103.0	103.6	101.5 以上
病床利用率(%)	87.8	89.2	89.7	91.0	91.0 以上
平均在院日数(日)	11.1	10.8	10.5	10.6	10.5 以下
新規患者数（入院）（人）	12,311	12,838	13,233	13,332	13,326 以上
新規患者数（外来）（人）	38,562	37,833	37,639	37,951	37,396 以上

※　医業収支比率は運営費負担金を含まない。

※　病床利用率，平均在院日数，新規患者数（入院・外来）は結核病床を含まない。

関連指標・西神戸医療センター

項　目	H27 実績	H28 実績	H29 実績	H30 実績
単年度資金収支(百万円)	－	－	6,050	825
給与費比率(%)	－	－	48.9	48.0
材料費比率(%)	－	－	27.3	28.2
経費比率(%)	－	－	18.5	18.0
運営費負担金比率(%)	－	－	5.4	5.3
手術件数（入院・外来合計）（件）	5,955	6,075	6,088	6,241
患者１人当たりの診療単価（入院）（円）	63,641	65,562	65,777	67,457
患者１人当たりの診療単価（外来）（円）	12,742	13,669	14,717	15,384
査定減率（入院）（%）	0.44	0.59	0.47	0.50
査定減率（外来）（%）	0.16	0.19	0.23	0.25

⑷　神戸アイセンター病院

○多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術等の提供や，白内障，緑内障，網膜疾患をはじめとした質の高い標準医療の着実な提供と高度専門医療の実施により，収入を確保する。

○臨床研究や治験を推進するための研究資金の確保に努める。

○コスト管理の徹底により，費用の削減を図る。

具体的な取り組み

・診療報酬改定による悪化への対応として，入院患者や手術件数の増加を図る

・多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術の先進医療から選定療養費の変更に伴い，多焦点眼内レンズの価格改定の見直しを行う

・さらなる費用削減に向けて，積極的な眼内レンズの費用削減を行う

・各部門だけでなく委託事業者への院長ヒアリングを行うとともに，院内連絡協議会に全委託事業者も参加することで，経営状況を共有し，病院が一丸となって経営改善に取り組み，安定した経営基盤の確立を進める

目標値・神戸アイセンター病院

項　目	H30 実績	R2 目標値
医業収支比率(%)	96.4	98.1 以上
経常収支比率(%)	101.2	100.3 以上
病床利用率(%)	74.7	78.2 以上
平均在院日数(日)	3.8	3.7 以下
新規患者数（入院）（人）	2,172	2,300 以上
新規患者数（外来）（人）	4,206	4,120 以上

※　医業収支比率は運営費負担金を含まない。

関連指標・神戸アイセンター病院

項　目	H29 実績	H30 実績
単年度資金収支(百万円)	15	219
給与費比率(%)	45.3	35.3
材料費比率(%)	30.4	32.5
経費比率(%)	25.5	18.3
運営費負担金比率(%)	7.5	6.4
手術件数（入院・外来合計）（件）	745	2,768
患者１人当たりの診療単価（入院）（円）	85,049	91,899
患者１人当たりの診療単価（外来）（円）	17,715	18,714
査定減率（入院）（%）	0.35	0.11
査定減率（外来）（%）	0.15	0.27

⑸　法人本部

〇医療を取り巻く環境の変化を踏まえ，経営にかかる課題の抽出・分析を実施するなど，各病院への経営改善支援を効果的かつ効率的に行う。

〇各病院と法人本部との適切な役割分担を行い，効率的な業務運営体制を踏まえた組織運営を行う。

具体的な取り組み

・財務データや診療データの各種経営指標による状況分析等の取り組みを強化し，安定した経営基盤の確立に取り組む

・常任理事会へ毎月経営指標を報告することにより，定期的に経営指標の確認・収支改善に向けた取り組みを実施していく

目標値・法人全体

項　目	H27 実績	H28 実績	H29 実績	H30 実績	R2 目標値
医業収支比率(%)	95.4	96.2	97.3	96.7	97.3 以上
経常収支比率(%)	99.4	98.9	100.4	100.0	100.4 以上

※　医業収支比率は運営費負担金を含まない。

関連指標・法人全体

項　目	H27 実績	H28 実績	H29 実績	H30 実績
単年度資金収支(億円)	▲18.2	▲12.3	70.8	▲0.6
運営費負担金比率(%)	7.6	7.1	7.1	7.4

２　経営基盤の強化

⑴　収入の確保及び費用の最適化

○新規患者数の確保や適正な在院日数に基づく病床管理に取り組むことに加えて，高度医療機器の効率的な運用を行い，確実に収入を確保する。

○医療を取り巻く環境の変化に迅速に対応できるよう，適時，的確な経営分析を進めるとともに，診療報酬改定にも的確かつ速やかに対応し，新たな収入の確保を図る。

具体的な取り組み

（法人本部及び共通）

・救急患者受入，紹介患者確保の強化による利用率の向上，ＤＰＣ入院期間を意識した病床運営の取り組みによる入院単価の向上等による収益確保を行う

・令和２年度診療報酬改定に基づき，収入増につながる新規項目や加算の取得等に対応し，安定した収入を確保する

・機構の資金需要を予測した上で，留保資金について，大口定期，債券での資金運用を積極的に行う

・寄付金を積極的に受け入れるため，引き続き院内でＰＲチラシを配布するほか，寄付方法の利便性向上等に向けた取り組みを行うとともに寄付をいただいた方をホームページで紹介する等の取り組みを行う。また，研究奨励を目的とする企業からの寄付についても受け入れを行う

○４病院体制のメリットを活かした費用削減として，一括購入の促進を図るとともに，医薬品については価格交渉の徹底を，診療材料については引き続き品目の統一化や在庫の適正化等への取組みを推進する。

具体的な取り組み

（法人本部）

・消耗品・診療材料の更なる共通化を図り，４病院のスケールメリットを生かした費用の削減に努める

・診療材料にあたっては，ベンチマークの活用，他の病院の価格情報の提供等を行うとともに，各病院が行う，値引率が適正でない材料の交渉における側面的支援や４病院の材料委員会での助言の充実を図ることで費用の削減に努める

・令和２年４月の薬価改定を踏まえ,十分な交渉期間を確保するため，契約時期を変更することで値引き率を高めることを目指す。また，高い値引率を引き出すために効果的な手法により契約を行う

・医薬品については,薬価交渉を行い９月末までに薬価総額 50%以上を妥結し,高い値引率を維持する

・調達から使用までの一貫したコストマネジメントの取り組みを行い，中長期的な視点に立って費用の最適化につながる購入を選択する

・在庫管理については,４病院は使用実績を基に適正な在庫数量を設定し，在庫金額削減に努める

・各種調達において，透明性・公正性を高め，競争性がより働くよう取り組む

関連指標・法人全体

項　目	H27 実績	H28 実績	H29 実績	H30 実績
未収金額（現年）（百万円）	61	58	94	117
未収金額（滞納繰越）（百万円）	128	146	177	191
給与費比率(%)	49.7	49.9	48.7	47.6
材料費比率(%)	29.2	29.9	29.8	29.9
経費比率(%)	18.7	18.7	19.4	18.6

⑵　計画的な投資の実施と効果の検証

〇少子高齢化等の社会情勢や医療需要の変化，並びに医療政策の動向等を踏まえ，４病院の役割や特徴，収益性を勘案した計画的な投資を推進する。

〇高度医療機器の更新及び整備等総合的な投資計画を策定し，状況に応じた的確な投資を行うとともにその効果を病院長が毎年度継続的に検証し，課題が検出された場合には当該課題の改善に取り組む。

〇建物設備の経年劣化に対応するため，中長期的な視点に立った計画的な保全整備等を実施する。

具体的な取り組み

（法人本部）

・市の実施する有識者会議にあわせて，市街地西部の中核病院としての役割・機能等，中長期的なビジョンを検討する

（中央市民病院）

・神戸市の基幹病院として，患者中心の質の高い医療を安全に提供し，市民の生命と健康を守るため，経年劣化した機器の更新や，安全性や精度がより高い機器等の導入を図る

・高額な医療機器について，投資額の平準化に努めるとともに，大型放射線機器を更に延命化するなど，経営状況に応じた投資に努める

（西市民病院）

・高齢化が進む地域の特性や神戸市の政策の動向等を踏まえて，必要性と採算性を考慮し，医療機能の拡充を検討する

・高度医療機器の更新及び整備について院長ヒアリングを行い，長期的な収益性を考えた判断を行うとともに，その効果を検証する

・患者サービス向上のため自動精算機等を導入するとともに，電子カルテシステムのハード更新を行う

（西神戸医療センター）

・高度医療機器の更新・整備については，経年劣化した機器の更新，安全性や精度がより高い機器等の導入を図るとともに，院長等によるヒアリングを行い，長期的な収益性を考慮した上で判断する

・経年劣化した既存設備の保全・改修を計画的に実施する

第４　予算（人件費の見積もりを含む。）収支計画及び資金計画

「第３　財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置」を着実に実行することにより，運営費負担金等の交付のもと，市民病院としての役割を果たすとともに，安定的な経常収支及び資金収支の維持を図る。

１　予算（令和２年度）

（単位：百万円）

区　　分	金　　額
収入	
営業収益	73,127
医業収益	67,640

運営費負担金	5,186
その他営業収益	301
営業外収益	1,264
運営費負担金	327
その他営業外収益	937
臨時利益	0
運営費負担金	0
その他臨時利益	0
資本収入	3,173
運営費負担金	155
運営費交付金	0
長期借入金	3,000
その他資本収入	18
その他の収入	0
計	77,564
支出	
営業費用	68,828
医業費用	68,060
給与費	31,412
材料費	21,740
経費	14,147
研究研修費	761
一般管理費	769
給与費	361
経費	392
研究研修費	16
営業外費用	704
臨時損失	0
資本支出	6,543
建設改良費	3,772
償還金	2,661
その他の資本支出	110
その他の支出	0
計	76,075

※　期間中の給与改定及び物価の変動等は０％と試算している。

[人件費の見積もり]

期間中総額 31,773 百万円を支出する。

なお，当該金額は，役員報酬並びに職員基本給，職員諸手当，時間外勤務手当及び休職者給与の額に相当するものである。

[運営費負担金の繰出基準等]

救急医療等の行政的経費及び高度医療等の不採算経費については，毎年度総務省が発出する「地方公営企業繰出金について」に準じた考え方により算出。

建設改良費及び長期借入金等元利償還金に充当される運営費負担金等については，経常費助成のための運営費負担金等とする。

ただし，用地取得に係る建設改良費及び長期借入金元金償還金に充当される運営費負担金等については，資本助成のための運営費負担金等とする。

２　収支計画（令和２年度）　（単位：百万円）

区　　分	金　　額
収入の部	74,309
営業収益	73,116
医業収益	67,421
運営費負担金収益	5,186
補助金等収益	210
寄付金収益	91
資産見返運営費負担金戻入	0
資産見返運営費交付金戻入	67
資産見返補助金戻入	10
資産見返寄付金戻入	11
資産見返物品受贈額戻入	120
営業外収益	1,193
運営費負担金収益	327
その他営業外収益	866
臨時利益	0
運営費負担金収益	0
その他臨時利益	0
支出の部	73,993

営業費用	70,041
医業費用	69,284
給与費	31,655
材料費	19,766
経費	12,956
減価償却費	4,210
研究研修費	697
一般管理費	757
給与費	349
経費	375
減価償却費	19
研究研修費	14
営業外費用	3,942
財務費用	696
控除対象外消費税償却	214
営業外雑支出	3,032
臨時損失	10
純利益	316
目的積立金取崩額	0
総利益	316

※ 期間中の給与改定及び物価の変動等は０％と試算している。

３　資金計画（令和２年度）　　（単位：百万円）

区　　分	金　額
資金収入	101,005
業務活動による収入	74,391
診療業務による収入	67,640
運営費負担金による収入	5,514
その他の業務活動による収入	1,237
投資活動による収入	173
運営費負担金による収入	155
運営費交付金による収入	0
その他の投資活動による収入	18
財務活動による収入	3,000

長期借入れによる収入	3,000
その他の財務活動による収入	0
前事業年度よりの繰越金	23,441
資金支出	101,005
業務活動による支出	69,627
給与費支出	31,773
材料費支出	21,740
その他の業務活動による支出	16,114
投資活動による支出	3,787
有形固定資産の取得による支出	2,745
無形固定資産の取得による支出	1,027
その他の投資活動による支出	15
財務活動による支出	2,661
長期借入金の返済による支出	2,336
移行前地方債償還債務の償還による支出	325
その他の財務活動による支出	0
翌事業年度への繰越金	24,930

※　期間中の給与改定及び物価の変動等は０％と試算している。

第５　短期借入金の限度額

１　限度額　10,000 百万円

２　想定される短期借入金の発生理由

(1) 賞与の支給等による一時的な資金不足への対応

(2) 予定外の退職者の発生に伴う退職手当の支給等，偶発的な出費への対応

第６　重要な財産を譲渡し又は担保に供する計画

なし

第７　剰余金の使途

決算において剰余を生じた場合は，病院施設の整備・修繕，医療機器の購入，人材育成及び能力開発の充実等に充てる。

第８　地方独立行政法人神戸市民病院機構の業務運営等に関する規則で定める業務運営に関する事項

１　施設及び設備に関する計画（令和２年度）

（単位：百万円）

施設及び設備の内容	予定額	財源
病院施設，医療機器等整備	総額　　3,772	神戸市長期借入金等

※１　金額については見込みである。

※２　各事業年度の神戸市長期借入金等の具体的な内容については，各事業年度の予算編成過程において決定される。

２　人事に関する計画（令和２年度）

・多様な働き方を選択できる労働環境を整備し，職員一人ひとりがより良い将来の展望を持てるよう，働き方の改革に取り組むとともに，優れた専門職の確保と人材育成に努める。

・医療を取り巻く環境の変化への対応，医療の質向上や医療安全の確保，患者サービス向上等に十分配慮した上で，業務量や業務内容に応じた人員配置や多様な雇用形態の活用等により効率的かつ効果的な体制及び組織を構築する。